

令和4年度（令和3年度対象）

教育委員会の事務の点検及び評価報告書

令和4年8月

芦屋市教育委員会



# 目 次

教育委員会の事務の点検及び評価について	1
1 教育委員会の事務の点検及び評価の導入について	1
2 令和4年度（令和3年度事業）教育委員会の事務の点検及び評価	2
<b>I 教育委員会の活動状況</b>	<b>3</b>
<b>II 第3期芦屋市教育振興基本計画施策体系</b>	<b>6</b>
<b>III 事務事業に対する点検及び評価の結果</b>	<b>16</b>
事務事業体系	16
評価指標一覧	18
事務事業に対する点検及び評価	
1 子どもたちの「生きる力」の育成と個を伸ばす教育の充実	20
2 命と人権を大切にする教育の充実	34
3 地域社会総がかりの教育施策の推進	39
4 人生100年を通じた学びの推進	58
5 読書のまちづくりの推進	68
<b>IV 学識経験者による総合評価</b>	<b>71</b>



## 教育委員会の事務の点検及び評価について

### 1 教育委員会の事務の点検及び評価の導入について

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定により、平成20年度から、各教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、自らが点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し議会に提出するとともに公表することとされました。また、この点検評価にあたっては、学識経験者の知見の活用を図ることとされました。

芦屋市教育委員会では、法の趣旨に則り、効率的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たすために、前年度に行った事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を実施しました。

《参考》地方教育行政の組織及び運営に関する法律(抄)

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

## 2 令和4年度(令和3年度事業)教育委員会の事務の点検及び評価

### (1) 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条に基づき、効率的な教育行政の推進に資するとともに、市民への説明責任を果たしていくため、芦屋市教育委員会の事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を実施する。

### (2) 点検及び評価の対象

令和3年度の教育委員会運営状況及び事務事業の状況

### (3) 点検及び評価の方法

今回の点検及び評価は、「第3期芦屋市教育振興基本計画」に基づく「令和3年度芦屋の教育指針」に掲げる教育施策の重点目標に添って事務事業を分類し、それぞれの事務事業についての評価と、課題・方向性の検証を行いました。

また、令和3年度末において達成を目指す施策の目標値(指標)30項目において、基準値(令和元年度)、目標値(令和7年度)及び毎年度の実績値を掲載し、成果や達成状況を把握するとともに、これに関連する事務事業の中で評価を行いました。

### (4) 学識経験者の知見の活用

点検及び評価の実施にあたっては、その客観性を確保するため、教育に関して学識経験を有する方々に依頼し、教育委員会事務局内で行った点検及び評価についてご意見をいただいております。

#### ○ 浅野 良一 氏

略 歴

兵庫教育大学大学院学校教育研究科 特任教授

教育活動……学校組織マネジメント、学校評価、教育施策の立案と評価、第3期芦屋市教育振興基本計画策定委員長

社会活動……芦屋市、明石市、西脇市、兵庫県教育委員会点検・評価外部委員他

#### ○ 中村 整七 氏

略 歴

芦屋大学臨床教育学部 准教授

教育活動……市学校園ネットワークシステム整備、元市立山手中学校校長、元市立山手小学校校長、元打出教育文化センター長、第2期芦屋市教育振興基本計画策定委員

社会活動……元社会教育委員

## I 教育委員会の活動状況（令和3年度）

### 1 教育長及び教育委員

（令和4年3月末現在）

職名	氏名	任期
教育長	福岡憲助	令和3年4月1日～令和6年3月31日
教育長職務代理者	上月敏子	令和元年12月6日～令和5年12月5日
委員	木村雅史	平成30年10月2日～令和4年10月1日
委員	河盛重造	令和2年10月2日～令和6年10月1日
委員	極楽地愛子	令和3年10月1日～令和7年9月30日

### 2 教育委員会の開催状況

開催回数 定例会11回 臨時会8回 協議会22回

区分／開催日	付議案件
第1回定例会 4月8日	芦屋市指定文化財（阿保天神社力石）の指定について 他4件
第2回臨時会 4月22日	芦屋市文化財保護条例施行規則の一部を改正する規則の制定について 他8件
第3回定例会 5月13日	令和3年度芦屋市義務教育諸学校教科用図書選定委員会委員の委嘱又は任命について 他3件
第4回臨時会 5月20日	令和3年度芦屋市要支援児童等教育支援委員会委員の委嘱又は任命について 他2件
第5回定例会 6月10日	芦屋市放課後児童クラブ条例施行規則の一部を改正する規則の制定について
第6回定例会 7月8日	芦屋市スポーツ推進審議会委員の委嘱について
第7回臨時会 7月29日	芦屋市教育委員会ハラスメント防止等に関する規則の制定について
第8回定例会 8月12日	令和3年度教育委員会の事務の点検及び評価報告書の作成について 他3件
第9回臨時会 8月26日	芦屋市青少年問題協議会の委員の委嘱又は任命について 他2件
第10回定例会 9月16日	芦屋市立公民館運営審議会委員の委嘱について
第11回臨時会 9月30日	令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について 他2件
第12回定例会 11月11日	令和4年度芦屋市立小中学校教職員異動方針について 他1件

第13回臨時会 11月25日	芦屋市特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例の制定について 他1件
第14回定例会 12月23日	令和3年度芦屋市要支援児童等教育支援委員会の審議結果について
第15回定例会 1月27日	芦屋市大学等入学支援基金条例の一部を改正する条例の制定について 他1件
第16回定例会 2月3日	芦屋市立学校管理運営規則の一部を改正する規則の制定について 他1件
第17回臨時会 2月24日	令和4年度芦屋の教育指針について 他1件
第18回定例会 3月10日	令和4年度芦屋市立小・中学校管理職の人事異動に係る兵庫県教育委員会への内申について 他2件
第19回臨時会 3月24日	芦屋市放課後子どもプラン運営委員会委員の委嘱について 他4件

議案 23件、専決報告 15件、報告 15件

※10月は協議会のみ開催。

### 3 教育委員会委員の主な活動状況

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、活動状況が例年と大きく異なっております。

#### (1) 総合教育会議

開催日	議 題
3月10日	1. 令和4年度教育委員会の主な事業について 2. その他

#### (2) 研修等

名 称	月 日
市町村教育委員研究協議会（オンライン）	9月2日、11月17日
阪神7市1町教育委員会連合会研修会	11月 6日



(3) 教育委員会関連事業

○ 入学（園）式・卒業（保育）証書授与式

	幼稚園	小学校	中学校
入学（園）式	4月13日	4月9日	4月8日
卒業（保育）証書授与式	3月17日	3月18日	3月10日

○ 運動会・音楽会・文化祭など

「学校園における新型コロナウイルス感染症対策ポイントマニュアル」に基づき、クラスター発生のリスクを下げるための3原則を遵守し、開催時期の変更や実施内容を工夫するなど感染拡大防止の対策を講じた上で、実施した。

○ 学校訪問

オープンスクール	市内各校
合同授業研究発表会	
その他随時訪問	

○ その他関連事業

仕事始め式	1月4日（オンラインにより実施）
成人式	1月10日

(4) その他

○ 教育トーク

新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催を中止。

4 教育委員会活動の情報発信

○ 教育委員会の開催日時、会議記録を芦屋市ホームページに掲載。

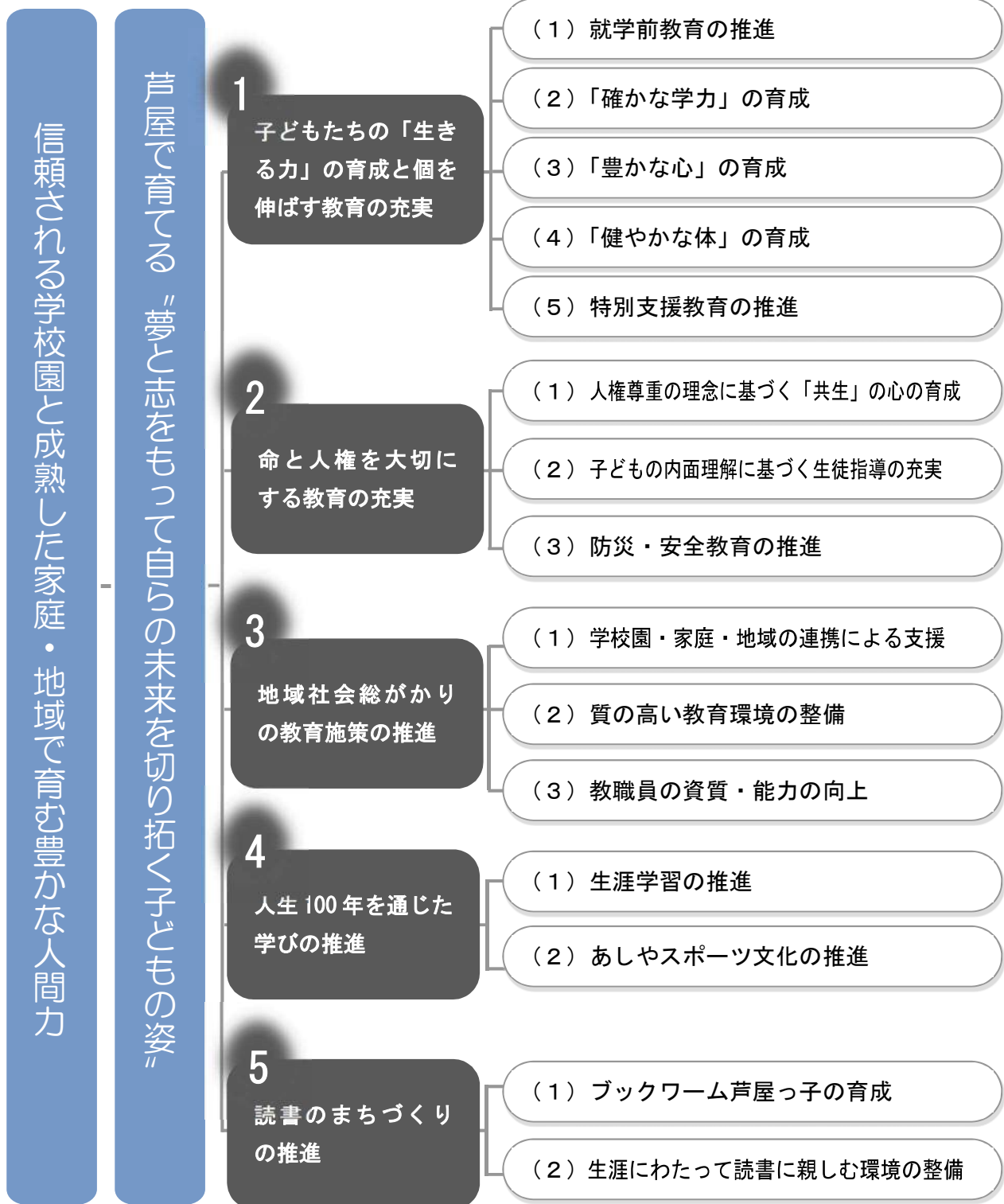
## II 第3期芦屋市教育振興基本計画施策体系

めざす  
芦屋の教育

めざす  
子ども像

重点目標

基本施策



## ◆今後5年間に取り組むべき施策と目標

### 重点目標1 子どもたちの「生きる力」の育成と個を伸ばす教育の充実

#### 基本施策1- (1) 就学前教育の推進

##### 施策の方向① 「生きる力」の基礎を培う就学前教育の推進

- ア 就学前教育・保育施設間の連携をさらに深め、質の高い教育・保育が提供できるよう、研修会を通して教職員の専門性を高めます。
- イ 芦屋市就学前カリキュラムに基づき、豊かな体験ができる教育・保育の内容の充実に努めます。
- ウ 幼児一人ひとりの興味・関心を生かした質の高い教育・保育を提供します。
- エ 芦屋市接続期カリキュラムに基づき、就学前施設と小学校との円滑な接続を推進します。

##### 施策の方向② 市立幼稚園に求められる役割への対応

- ア 市立幼稚園における3歳児保育の実施について、検証・研究を行います。
- イ 3歳児親子ひろばや未就園児交流会等を継続実施し、地域の未就園児の居場所づくりや子育て支援、子育て相談を行います。
- ウ 地域との連携を生かした幼児教育のセンター的役割を担い、家庭の教育力の向上を支援します。
- エ 市立幼稚園での預かり保育を継続して実施します。

#### 基本施策1- (2) 「確かな学力」の育成

##### 施策の方向① 考える力や創造性を伸ばす教育の推進

- ア 全国学力・学習状況調査の結果を分析し、カリキュラム・マネジメントを行いながら授業改善につなげていきます。
- イ 算数・数学の学習指導員（チューター）、小学校の理科推進員、教育ボランティア等の指導補助員を継続して配置し、主体的に学習に取り組むことができる学習環境と個に応じた指導の徹底を図ります。
- ウ 各教科等において言語活動を充実させ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた実践研究に取り組み、授業改善を進めます。

##### 施策の方向② 情報社会の進展に伴う教育の推進

- ア 1人1台タブレット端末等ICTを効果的に活用しながら、児童生徒が様々な学びをし、主体的に考えを深めることができる授業研究を進めていきます。
- イ ICTを活用した授業の充実を図り、主体的に情報を収集・比較・選択し、効果的に表現する等、情報活用能力を育成します。
- ウ 各学校において生徒指導、人権教育、道徳教育等を通して心豊かに育て、情報化社会で生きるためのモラルの育成に努めます。
- エ 今後、児童生徒がタブレット端末による学習活動が円滑に行えるような技能の習得を図っていきます。

##### 施策の方向③ グローバル化に対応した教育の推進

- ア 外国や外国人との交流を進めることなどにより、児童生徒の異文化に対する理解や関心を高め、

外国にルーツのある児童生徒と相互に学び合い、国際社会への視野を広げます。

- イ 外国語教育の充実をめざし、教職員の専門性を高めるための研修の実施や、専門性の高い外国語講師の配置を行うとともに、中学校との滑らかな接続をめざしたカリキュラムの研究・開発を行い実践します。
- ウ 個に応じるための教材の工夫・開発や新学習システム等を活用した学習指導を進め、英語力、コミュニケーション力の向上をめざした授業研究を行い実践します。
- エ 外国人児童生徒等に対する日本語指導・支援を充実させるとともに、外国人児童生徒等が、自らのアイデンティティを確立できるように、母語や母文化の保持・伸長を図れるよう取り組みます。
- オ 外国語によるスピーチ等を通して、児童生徒が互いに学びあい高めあう機会を創造します。
- カ 中学校卒業時に英語検定3級以上相当の力をつけるような取組を実践します。

#### 施策の方向④ 自立を目指したキャリア教育の推進

- ア 将来への夢や希望を育む指導や子どもたちの発達段階に応じて、キャリアパスポート等を活用しながら、社会的自立のために必要な資質や能力を育成する指導の充実を図ります。
- イ 地域人材や関係機関との連携を行い、幼児児童生徒が幅広く、豊かな体験ができるよう、計画的に特色ある活動を進めていきます。
- ウ 進路指導の充実に向けて、中学生用進路指導資料「進路の学習」の改訂を行い、最新の情報を提供し、有効に活用します。

### 基本施策Ⅰ－(3)「豊かな心」の育成

#### 施策の方向① 道徳性を育む教育の推進

- ア 「考え、議論する道徳」の授業の充実をめざして、子どもたちが主体的・対話的に学ぶための指導と評価の研究及び実践に取り組みます。
- イ 他者と交流する体験活動や課題解決の学習等を通じて、共生社会に生きる上で必要な道徳的実践意欲と態度や道徳的心情、道徳的価値判断を育みます。
- ウ 小・中学校が連携して「特別の教科 道徳」の時間の相互授業参観、合同研修を実施し、実践的指導力の向上を図ります。

#### 施策の方向② 豊かな情操を育む体験活動の推進

- ア 環境体験、自然学校等の体験活動を継続して実施することにより、自然の中で心身ともに調和のとれた子どもの育成を図ります。
- イ 地域に学び、地域で共に生きる心や感謝の心を育みながら、自律性を高めるなど様々な体験活動を通して「生きる力」を育成するトライやる・ウィークを継続して実施します。
- ウ 芦屋市造形教育展等を継続して実施し、子どもたちの学習成果を地域、保護者、子どもたちに発信します。
- エ 子どもたちが相互に交流しあう機会として、なかよしフェスティバル、中学校総合文化祭等を継続して実施します。

## 基本施策 1 - (4) 「健やかな体」の育成

### 施策の方向① 体力向上の取組の推進

- ア 学校における全国体力・運動能力調査の結果を分析し、子どもの体力・運動能力向上に向けた指導の改善と幼・小・中が連携し、系統的な指導の実践に取り組みます。
- イ 子どもが体を動かすことの楽しさを感じることができる機会を増やします。
- ウ 家庭や地域で取り組む子どもの健康・体力づくりについて、啓発・発信します。

### 施策の方向② 健康教育及び食育の推進

- ア 食に関する正しい知識と望ましい生活習慣を身につけることができるよう、食育、健康教育の授業研究を実施します。
- イ 小・中学校において薬物乱用防止等に関する教育を、学校の教育活動全体を通して実施します。
- ウ 適切な食物アレルギー対応ができるように、研修会を継続して実施するとともに、多様化する食物アレルギーに対応できるよう、状況に応じてマニュアルを適宜改訂します。
- エ インフルエンザ、風疹、麻疹、新型コロナウイルス等の感染症について正しく理解させ、予防する能力や態度を育成します。

## 基本施策 1 - (5) 特別支援教育の推進

### 施策の方向① 多様な教育的ニーズに対応した指導の充実

- ア 個別の指導計画や個別の教育支援計画、個別の年間指導計画等の個に応じたカリキュラムの作成と活用の促進を図ります。
- イ 加配教員や特別支援教育センター職員などによる巡回指導の充実を図ります。
- ウ 学校園で行われる保育・授業研究や研修会を通じて、教材の工夫や支援の方法、合理的配慮の実践事例等の交流を図ります。

### 施策の方向② 相談・支援体制の充実

- ア 特別な支援が必要な子どもが個別のニーズに応じた教育を受けられるよう、教職員の専門性を高める研修の充実を図ります。
- イ 加配教員や支援員等の効果的な配置を進めます。
- ウ 特別支援教育センター機能を充実させるとともに、特別支援学校や関係機関を含め、学校園間の連携強化を図ります。

## 重点目標 2 命と人権を大切にす教育の充実

## 基本施策 2 - (1) 人権尊重の理念に基づく「共生」の心の育成

### 施策の方向① 人権を大切にす教育の推進

- ア 時代の変化と学校園の実態を踏まえ、子どもの発達段階に応じた人権教育を計画的に推進します。
- イ 平和教育を通して命の尊さ、平和の大切さを実感させる教育実践を充実させるとともに、人権

研修会を計画的に開催し、教職員の人権意識の向上を図ります。

ウ 芦屋市人権教育推進協議会やPTA協議会の人権活動への支援を行います。

#### 施策の方向② 「共生」の心を育む教育の推進

ア 共生社会の実現に向け、関係機関や地域と連携した取組を進めます。

イ 子どもたちが共に学び合う機会の充実を図り、お互いの違いを認め尊重する心や態度を育みます。

### 基本施策2 - (2) 子どもの内面理解に基づく生徒指導の充実

#### 施策の方向① いじめ等問題行動の防止の徹底

ア いじめ防止基本方針に基づき、アンケートによる情報収集や教育相談の充実等により、いじめ等の問題の早期発見・早期対応に努め、適切な対応ができる体制を整えていきます。

イ 学校だけで解決が困難な生徒指導事案の対応を支援するため、専門家や関係機関との連携を強化し、学校の生徒指導を支援する体制整備を進めます。

ウ 教育課程全般において、いじめ等の問題（インターネットを通じて行われるものを含む）について、主体的に考える機会を設けたり、子どもたちが情報を正しく選択し、判断していく力を身につけたりする取組を推進します。

エ 保護者に対し、子どもたちが情報を正しく選択し活用できるようインターネット利用に係る弊害やトラブル等についての啓発活動を行います。

#### 施策の方向② 不登校へのケアと支援の充実

ア 各学校において、子どもの内面理解を根本に置いた組織的な生徒指導の充実や、学校が子どもたちにとって、安心できる居場所となるよう、教育活動の充実を図ります。また、児童生徒個々の状況を把握し、不登校の未然防止に努めます。

イ 教職員がカウンセリングマインドをさらに意識した指導を行い、子どもたちの自尊感情を高める取組を進めます。

ウ 不登校の状況改善や社会的自立に向けて、学校だけでなく家庭や地域社会、関係機関との連携をより一層深め、個別のケース会議を進める中で、適切な対応を行います。

### 基本施策2 - (3) 防災・安全教育の推進

#### 施策の方向① 語り継ぐ芦屋の防災教育の推進

ア 今後とも、阪神・淡路大震災を風化させないため、震災から学んだことなどを語り継ぐとともに、災害に備える防災・減災の教育を進めます。

イ 防災教育の内容を教科横断的な視点で、各教科の学習内容と結びつけ、防災・減災の指導の充実を図り、災害時には、自ら考え、判断し、行動する力を育成します。

#### 施策の方向② 地域と連携した安全教育の推進

ア 就学前施設・小学校・中学校の交通安全教室や自転車教室を継続実施し、交通安全の意識向上を図ります。

イ 防犯教室等を継続して実施し、子ども自らが危険を回避し命を守る能力を身につけるための指導を推進します。

- ウ 芦屋市通学路安全プログラムに基づき、通学路の合同点検を行政、警察、学校、地域等で連携して実施し、危険箇所の点検・改善を進めます。

### 重点目標3 地域社会総がかりの教育施策の推進

#### 基本施策3 - (1) 学校園・家庭・地域の連携による支援

##### 施策の方向① 子どもの居場所づくりの推進

- ア 放課後や週末等に小学校施設等を活用して、地域の方々の参画を得て、子どもたちの安全・安心な活動拠点としての校庭開放、あしやキッズスクエアを引き続き開設します。

##### 施策の方向② 地域と連携した青少年の健全育成

- ア 小学校を核とした活発な地域交流により、地域全体で子どもたちの育成を支えられるよう、コミュニティ・スクールの活動支援を行います。
- イ 世代間交流や地域団体との交流を目的として、「昔あそび教室」等の事業を開催します。
- ウ 青少年によるあしやキッズスクエア等の参画を進め、青少年の健全育成に努めます。
- エ 「芦屋市子ども会連絡協議会」等の青少年団体活動を支援します。
- オ 愛護委員による市内街頭巡視活動をはじめとした、青少年の健全な育成環境の維持に努めます。
- カ 持続可能な運営を行いながら、放課後児童健全育成事業の充実を図ります。
- キ 子どもたちが自発的にのびのびと過ごす居場所づくりと企業 NPO・地域・近隣の高校大学の多様な協働による体験活動を提供します。

##### 施策の方向③ 地域による学校支援の推進

- ア PTA や地域を中心とした学校支援ボランティアグループ等に対し、活動がより円滑に行えるよう支援を行います。
- イ 青色回転灯付自動車による見守り巡回パトロールを継続して実施します。

##### 施策の方向④ 困難を有する子ども・若者の包括的な支援

- ア 若者相談センター「アサガオ」を中心に、困難を有する子ども・若者への包括的支援をめざし、関係機関との情報共有に努め、連携した支援に取り組みます。
- イ 困難を有する子ども・若者への個別支援については、医療機関等の専門機関へのつながりを充実させ、ソーシャル・ワークを進めます。
- ウ 若者相談センター「アサガオ」においてピアサポートを充実させます。
- エ 市立3中学校を卒業した生徒の進路追跡調査を行い、長期欠席・転学・不登校などの生徒について学校と連携して支援を行います。

##### 施策の方向⑤ 家庭・地域の教育力の向上

- ア 生涯学習出前講座の内容をニーズに合わせ充実を図ります。
- イ 家庭の教育力を高めるための子育てセミナーの実施を支援します。
- ウ コミュニケーション教室としてアサガオセミナーを実施します。
- エ 「中学校区青少年健全育成推進会議」を通じて、研修会などを開催し、青少年健全育成事業を実施します。

### 基本施策3－（2）質の高い教育環境の整備

#### 施策の方向① 安全で快適な魅力ある学習環境の整備

- ア 老朽化した精道中学校の建替えを実施します。
- イ タブレット端末等のICTが安全・安心・快適に活用できるよう、ICT環境を整備します。

#### 施策の方向② 就学前施設、小学校、中学校の連携強化

- ア 芦屋市接続期カリキュラムに基づき、就学前教育・保育施設と小学校との連携を推進します。就学前教育・保育施設と小学校の保育や授業の相互参観や交流をさらに進めます。
- イ 小・中学校の教員が学び合う授業研究会の開催など、小・中学校が連携することで、学びの連続性を踏まえた教育を推進します。
- ウ 幼・小・中の校種を越えた研究部会の活動を推進します。

#### 施策の方向③ 開かれた学校園づくりの推進

- ア 各学校園におけるホームページの充実を図ります。
- イ 保護者、地域の方等の人材や教育資源を活用し、学校園の教育活動を進めます。
- ウ 学校・地域・保護者が課題、情報等を共有し、熟議し、意思を形成しながら学校運営協議会の設置及び運営を進めていきます。

#### 施策の方向④ 学びの機会を保障するための支援

- 幼児教育・保育の無償化はもとより、就学援助や高校奨学金など教育費の負担軽減に向けた経済的支援に取り組みます。

### 基本施策3－（3）教職員の資質・能力の向上

#### 施策の方向① 教職員のキャリアステージに応じた研修の充実

- ア 一般・課題別研修講座、教師力向上支援講座、ICT活用研修講座などの各種研修の充実を図ります。各校で実施される校内研修会の更なる推進やサポートを行います。
- イ 新任教職員及び経験年数5年までの教職員の研修講座の充実を図ります。
- ウ 幼・小・中の連携も視野に入れながら教科等部会や研究部会の更なる活性化を図ります。
- エ 学校支援相談員による各校への巡回指導及び臨時的任用教員研修会の充実を図り、指導力向上、学校支援に努めます。
- オ 学校園の組織力を向上させるため、喫緊の教育課題に応じた校園長研修、教頭研修、主幹教諭研修の充実を図ります。

#### 施策の方向② 教職員が子どもと向き合う時間の確保

- ア 校務支援システムやICTを有効に活用し、校務の効率化を図ります。
- イ 外部人材の有効活用について研究を進めます。
- ウ 校内業務改善組織の活性化を図りながら、定時退勤日、ノー部活デー、ノー会議デーの更なる徹底を図ります。



基本施策 4 - (1) 生涯学習の推進

施策の方向① 生涯学習の機会の充実

- ア 芦屋の歴史を知り、郷土への愛着が育まれるよう市内の歴史文化遺産の理解の促進を図ります。
- イ 美術博物館がより市民に親しまれるよう、美術作家による講座や音楽家等と協力したコンサートを行うなど、事業の充実を図ります。
- ウ 美術博物館と就学前施設・学校とが連携した美術レクチャー、造形教室、ワークショップ等、活動の充実と利用促進を図ります。
- エ 文化ゾーン（図書館、谷崎潤一郎記念館、美術博物館）の利点を生かし、三館の連携・協力による事業の取組を進めます。
- オ 社会教育活動を活発にし、社会教育関係団体の活動が芦屋の市民文化を支える核となるよう活躍の機会を提供し、支援します。
- カ 様々な学習を行う市民グループ等の活動を周知して、生涯学習をしようと考えている市民が、体験的に活動に参加できるようにします。
- キ 音楽コンサート、落語、映画等の芸術を鑑賞する機会を提供するなど、市民センターにおける文化事業の充実を図ります。
- ク 市民の学習ニーズや現代の教育課題に応じた講座・セミナー・音楽会等を開催します。
- ケ 高齢者の学習機会の整備と社会的活動への参加促進を図るため、60歳以上の市民を対象とした芦屋川カレッジやカレッジ大学院などを引き続き実施します。
- コ 市民の文化意識の向上を図るため、常設展示事業・公民館ギャラリーを実施します。

施策の方向② 指導者の養成・育成

- ア あしや学びあいセミナー（市民版出前講座）に登録する団体を増やし、市民協働による事業の充実を図ります。
- イ 市民の力で芦屋の歴史を守り、継承されるよう、文化財の保存・活用における文化財ボランティアの活動の充実を図ります。

施策の方向③ 学習情報の収集・提供

- ア 学びたいときに、学びたい内容についての情報が入手できるよう、学習情報として「公民館講座」の内容及び周知方法の充実を図ります。
- イ 文化財の周知・普及等の広報活動の充実を図ります。
- ウ 様々な団体が連携して活動ができるよう、社会教育関係団体間の情報交流・発信を支援します。
- エ 芦屋の魅力を知り、誇りが持てるよう、芦屋ゆかりの文化・芸術への理解を深める事業の充実を図ります。
- オ 公民館では、学習相談を実施し、学習情報の提供を行います。

基本施策 4 - (2) あしやスポーツ文化の推進

施策の方向① ライフステージに応じたスポーツの推進

- ア ファミリースポーツのつどいなど、幼年・少年期から成人・高齢期まで、それぞれのライフス

テージに応じたスポーツ教室やイベントなどを企画、開催していきます。

イ 世代を超え、誰もが参加してきた「ラジオ体操」を見直し、指導者の研修会や市民対象の講習会等を行い、充実を図り推進していきます。

ウ 障がい者スポーツのすそ野拡大のため、「しょうがい者とのスポーツ交流ひろば事業」等の充実を図ります。

#### 施策の方向② スポーツ文化の推進

ア 「あしやスポーツ文化」を育てるため、スポーツ絵画展、フォトコンテストやポスター展などの文化的行事をスポーツ団体と連携して開催します。

イ スポーツにおける功績者や実技者で顕著な成績を収めたアスリートを表彰し、スポーツ文化の推進の高揚に努めていきます。

#### 施策の方向③ 学校・地域連携の推進

ア スポーツ団体間の交流事業を支援するとともに、それぞれの課題を協議し、事業を推進していきます。

イ スポーツ研究者との交流や施設の開放等、市と近隣大学等の連携・協働により地域への貢献を図っていきます。

#### 施策の方向④ 芦屋らしいスポーツの推進

ア 市内におけるスポーツ実施率の高い種目について、市民対象の競技会を行うなど充実を図り推進します。

イ 六甲山系や芦屋浜の自然の中で行うスポーツ行事の実施や、環境の整備を図ります。

### 重点目標5 読書のまちづくりの推進

#### 基本施策5-（1）ブックワーム芦屋っ子の育成

##### 施策の方向① 子どもの読書習慣の確立

ア 家庭内で本に親しむ機会を増やせるよう、親子向けの読み聞かせを実施します。

イ 「おはなしノート」「読書記録」「読書スタンプラリー」の更なる活用を図るとともに、様々なジャンルの本との出会いや本への興味が広がる取組を授業や保育を通して推進していきます。

ウ 教育課程に位置づけながら教科指導等において、計画的、継続的な学校図書館の活用を通して、読書活動を実施していきます。

エ 本を活用して、人とのつながりを深める主体的、意欲的な読書活動の充実を図ります。

オ 研究発表会等を開催し、学校園の読書推進の取組成果を広く発信します。

カ 読み聞かせ等のボランティアを支援し、学校及び就学前施設と地域が連携した読書活動を実践します。

##### 施策の方向② 学校図書館の利用促進

ア 学校図書館を「学習情報センター」として3つの機能（読書・学習・情報）を位置付け、学校図書館の環境整備を進めるとともに、授業での活用を図ります。

イ 司書補助員を継続して配置するとともに、司書教諭や学校図書館担当者等の資質向上のための研修の充実を図ります。

- ウ 学校図書館のレファレンス機能を充実し、教職員・児童生徒に対して、学習に必要な資料や役立つ情報を積極的に提供し、学校図書館の利用を増やします。
- エ 図書ボランティア等や地域とも連携し、学校図書館の環境整備を進めます。

### ◆ 施策の方向③ 公立図書館と連携した教育活動の推進 ◆

- ア 公立図書館司書と学校図書館関係者との合同研修会を拡充し、連携強化に努めます。
- イ 公立図書館から学校園への団体貸出し等の利用促進を図ります。

## 基本施策5－(2) 生涯にわたって読書に親しむ環境の整備

### ◆ 施策の方向① 読書活動を支える公立図書館の機能強化 ◆

- ア 電子図書館システムの導入や打出分室の改修工事など、ICTの活用及び読書環境の整備を図ります。
- イ 市民が知識や教養を深めたり、情報を活用できるよう、資料の充実を図るとともに、レファレンス機能を強化します。
- ウ 子どもたちが本に親しみ、楽しい読書体験ができるよう、児童図書の充実を図ります。
- エ 学校園との連携による図書館利用の促進に努めます。
- オ 公民館図書室では、公立図書館と連携し、市民サービスの向上に努めます。

### Ⅲ 事務事業に対する点検及び評価の結果

#### ●事務事業体系

重点目標	基本施策	事務事業名	種別	再掲	担当課	頁	
1 子どもたちの「生きる力」の育成と個を伸ばす教育の充実	(1)就学前教育の推進	就学前教育推進事業	主な事業		学校教育課	20	
		市立幼稚園子育て支援事業	主な事業		管理課	21	
		教育委員会の運営	その他事業		管理課	22	
		教育委員会その他一般事務	その他事業		管理課	22	
		私立幼稚園子育て支援事業	その他事業		管理課	22	
	(2)「確かな学力」の育成	学力向上支援事業	主な事業		学校教育課	24	
		国際理解教育推進事業	主な事業		学校教育課	24	
		学校園ICT環境整備事業	主な事業		打出教育文化センター	25	
		進路指導関係事務	主な事業		学校教育課	26	
	(3)「豊かな心」の育成	環境教育推進・自然学校推進事業	主な事業		学校教育課	27	
		トライやる・ウィーク推進事業	主な事業		学校教育課	28	
		文化活動振興事業	主な事業		学校教育課	28	
		道徳教育推進事業	その他事業		学校教育課	29	
	(4)「健やかな体」の育成	学校体育振興事業	主な事業		学校教育課	30	
		学校給食関係事務	主な事業		学校教育課	31	
		中学校部活動推進事業	主な事業		学校教育課	31	
		学校保健関係事務	主な事業		学校教育課	32	
	(5)特別支援教育の推進	特別支援教育推進事業	主な事業		学校教育課	33	
	2 命と人権を大切にす る教育の充実	(1)人権尊重の理念に基づ く「共生」の心の育成	人権教育推進事業	主な事業		学校教育課	34
			人権教育推進	主な事業		生涯学習課	34
(2)子どもの内面理解に基 づく生徒指導の充実		生徒指導対策事業	主な事業		学校教育課	35	
		適応教室実施事業	主な事業		学校教育課	35	
		カウンセリングセンター管理運営事業	主な事業		学校教育課	36	
(3)防災・安全教育の推進		防災・安全教育推進事業	主な事業		学校教育課	37	
3 地域社会総がかりの 教育施策の推進	(1)学校園・家庭・地域の 連携による支援	学校園・家庭・地域の教育推進支援事業	主な事業		生涯学習課	39	
		あしやキッズスクエア事業	主な事業		青少年育成課	40	
		青少年保護対策事業（放課後児童クラブ）	主な事業		青少年育成課	41	
		放課後児童健全育成事業	主な事業		青少年育成課	41	
		子ども若者育成支援対策	主な事業		青少年愛護センター	42	
		青少年愛護センター運営	主な事業		青少年愛護センター	42	
		青少年健全育成及び青少年団体育成事業	その他事業		青少年育成課	43	
		青少年問題協議会経費	その他事業		青少年愛護センター	43	
		(2)質の高い教育環境の整 備	特色ある学校園づくり支援事業	主な事業		学校教育課	44
			就学前教育推進事業	主な事業	再掲	学校教育課	45
	学校園ICT環境整備事業		主な事業	再掲	打出教育文化センター	46	
	企画運営事業		主な事業		学校教育課	46	
	義務教育運営等事務		主な事業		学校教育課	47	
	小学校維持管理		その他事業		管理課	47	
	中学校維持管理		その他事業		管理課	48	
	幼稚園維持管理		その他事業		管理課	48	
	小学校施設整備事業		その他事業		建築課	48	
	中学校施設整備事業		その他事業		建築課	48	
	幼稚園施設整備事業	その他事業		建築課	49		
	小学校施設維持管理業務	その他事業		建築課	49		
中学校施設維持管理業務	その他事業		建築課	49			
幼稚園施設維持管理業務	その他事業		建築課	49			
私立学校園助成費	その他事業		管理課	50			
就学援助費	その他事業		管理課	50			
芦屋市奨学金	その他事業		管理課	50			
在日外国人学校就学補助金	その他事業		管理課	50			
大学等入学支援基金事業	その他事業		管理課	51			
遠距離通学費助成	その他事業		管理課	51			
(3)教職員の資質向上の推 進	教職員の資質向上事業	主な事業		学校教育課	52		
	学校園ICT環境整備事業	主な事業	再掲	打出教育文化センター	53		
	打出教育文化センター教育研究推進と研修事業	主な事業		打出教育文化センター	53		
	職員の執務環境及び健康管理関係事業	主な事業		教職員課	54		
	打出教育文化センター一般事業	主な事業		打出教育文化センター	55		
	教員の採用、任命、異動、研修、表彰、服務関係事業	その他事業		教職員課	55		
	人事関係内部管理業務	その他事業		教職員課	55		
	正規職員の例月給与・一時金・退職金等の業務	その他事業		教職員課	56		
	公務災害・通勤災害	その他事業		教職員課	56		
	会計年度任用職員関係経常業務	その他事業		教職員課	56		
	県費負担教職員の服務等の経常業務	その他事業		教職員課	57		
	打出教育文化センター一般事務	その他事業		打出教育文化センター	57		

重点目標	基本施策	事務事業名	種別	再掲	担当課	頁
4 人生100年を通じた学びの推進	(1)生涯学習の推進	美術博物館管理運営事業	主な事業		生涯学習課	58
		生涯学習推進事業	主な事業		生涯学習課	59
		谷崎潤一郎記念館管理運営事業	主な事業		生涯学習課	59
		文化財保護及び活用事業	主な事業		生涯学習課	60
		市民センター管理運営業務	主な事業		市民センター	60
		市民会館文化事業	主な事業		市民センター	61
		打出教育文化センター管理運営	その他事業		打出教育文化センター	61
		富田碎花顕彰事業	その他事業		生涯学習課	62
		三条分室及び三条デイサービスセンターの維持管理	その他事業		生涯学習課	62
		ルナ・ホール事業	その他事業		市民センター	62
		講座・セミナー・音楽会等の開催	その他事業		公民館	63
		芦屋川カレッジ・芦屋川カレッジ大学院	その他事業		公民館	63
		公民館図書室の運営	その他事業		公民館	63
		芦屋市立公民館運営審議会等	その他事業		公民館	63
		常設展示事業・公民館ギャラリー	その他事業		公民館	64
		阪神南青い鳥・くすの木学級の開催	その他事業		公民館	64
	(2)あしやスポーツ文化の推進	生涯スポーツ推進事業	主な事業		スポーツ推進課	65
		スポーツ振興基金事業	その他事業		スポーツ推進課	66
		芦屋公園庭球場管理運営事業	その他事業		スポーツ推進課	66
		朝日ヶ丘公園水泳プール管理運営事業	その他事業		スポーツ推進課	66
南芦屋浜地区教育施設用地活用事業		その他事業		スポーツ推進課	67	
体育館・青少年センター等の管理運営事業		その他事業		スポーツ推進課	67	
海浜公園水泳プール管理運営事業		その他事業		スポーツ推進課	67	
5 読書のまちづくりの推進	(1)ブックワーム芦屋っ子の育成	読書活動推進事業	主な事業		学校教育課	68
	(2)生涯にわたって読書に親しむ環境の整備	図書館運営事業（収集整理利用）	主な事業		図書館	69
		図書館施設整備事業	主な事業		図書館	70
		公民館図書室の運営	その他事業	再掲	公民館	70

●評価指標一覧

No.	重点目標 基本施策	評価指標	単位	基準値 R1	実績値					目標値 R7
					R3	R4	R5	R6	R7	
1	1 (1)	幼稚園・保育所・認定こども園の 合同研修会等参加人数	人/年	532	347					450
2	1 (1)	市立の全幼稚園の未就園児とその 保護者に対する施設開放実施日の 総数	回/年	670	384					560
3	1 (2)	中学校の数学で「授業がよくわか る」と答えた生徒の割合	%	76.1	71.2					80.0
4	1 (2)	授業にICTを活用して指導するこ とができた教職員の割合	%	55.3	70.0					100.0
5	1 (2)	情報活用の基盤となる知識や態度 について指導することができた教 職員の割合	%	66.5	81.6					100.0
6	1 (2)	小学校の英語学習で、「これから も英語を使ってみたい」と答えた 児童の割合	%	91.0	87.4					92.1
7	1 (2)	日本語指導が必要な外国人児童生 徒等に対してDLAを活用した個別の 支援計画に基づいた支援等の研修 会に参加したことがある教職員の 割合	%	-	8.7					50.0
8	1 (2)	将来の夢や目標を持っている児童 生徒の割合	%	小学校 83.9 中学校 69.1	小学校 80 中学校 60.9	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校 87.0 中学校 72.0
9	1 (3)	小・中学校が連携して道徳教育を 推進するため、道徳の時間の相互 参観、合同研修等を実施している 学校数	校	11	5					11
10	1 (4)	全国体力・運動能力調査結果で全 国平均以上の種目の割合	%	6.3	31.2					20.0
11	1 (5)	特別支援教育に係る研修会、研究 会の参加者数	人/年	516	216					500
12	2 (2)	中学校における不登校生徒の割合	%	5.4	7.0					4.0
13	2 (3)	通学路合同点検において確認され た危険箇所（市が実施主体となる 箇所のみ）の改善割合	%	100.0	100.0					100.0
14	3 (1)	あしやキッズスクエア及び校庭開 放の開催日数	日/年	1,815	1,432					2,035
15	3 (1)	青少年の自主的活動（青少年リー ダー及び青少年ボランティア）者 数	人/年	440	215					600
16	3 (1)	放課後児童健全育成事業の待機児 童数	人	0	0					0

No.	重点目標 基本施策	評価指標	単位	基準値 R1	実績値					目標値 R7
					R3	R4	R5	R6	R7	
17	3 (1)	あしやキッズスクエアでのプログラム実施回数	回/年	784	106					800
18	3 (1)	学校支援ボランティアグループの活動実施日数	日/年	651	701					700
19	3 (1)	若者相談センター「アサガオ」の支援対象者数	人/年	116	107					150
20	3 (2)	教育ボランティアの活動人数	人/年	600	177					600
21	3 (3)	一般・課題別・ICT研修講座満足度	-	3.6	3.7					3.8
22	3 (3)	様々な業務改善を推進する中で、専門性の向上に費やす時間やゆとりをもって子どもと接する時間が増えたと感じる教職員の割合	%	50.0	52.8					75.0
23	4 (1)	中学生以下の美術博物館入館者数	人/年	1,742	2,825					2,000
24	4 (1)	あしや学びあいセミナー（市民版出前講座）に登録する団体数	-	33	23					40
25	4 (1)	文化財の整理作業補助等に関わる「文化財ボランティア」の活動者数	人/年	14	8					15
26	4 (1)	公民館講座等の受講率	%	81.4	97.5					85.0
27	4 (2)	スポーツ啓発事業参加者数	人/年	479	627					700
28	5 (1)	児童生徒一人当たりの学校図書館における図書貸出冊数	冊/年	小学校 79.4 中学校 16.5	小学校 95.6 中学校 13.0	小学校	小学校	小学校	小学校	小学校 80.0 中学校 20.0
29	5 (2)	公立図書館における市民1人あたりの図書貸出冊数	冊/年	7.2	7.7					8.0
30	5 (2)	公立図書館における児童（7～15歳）の図書貸出冊数	冊/年	54,839	41,847					73,480

1					2			3			4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)

## 重点目標 1 子どもたちの「生きる力」の育成と個を伸ばす教育の充実

### 基本施策 (1) 就学前教育の推進

- 施策の方向性
- 「生きる力」の基礎を培う就学前教育の推進
  - 市立幼稚園に求められる役割への対応

#### 関連指標

No.	評価指標	単位	基準値 R1	実績 R3	目標値 R7	概要
1	幼稚園・保育所・認定こども園の合同研修会等参加人数	人/年	532	347	450	市が実施する公私立幼稚園・公私立保育所(園)・認定こども園の合同研修会等の参加者延べ人数。
2	市立の全幼稚園の未就園児とその保護者に対する施設開放実施日の総数	回/年	670	384	560	各市立幼稚園の園庭開放や未就園児交流会等施設開放の実施回数。

### 就学前教育推進事業（主な事業）

<所管課：学校教育課>

事業の概要	「教育のまち 芦屋」のスタートとしての幼稚園教育の充実を目指し、各園での保育研究、環境整備、地域との連携、保護者への啓発等の推進を支援する。
令和3年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>□市立幼稚園全園で公開保育研究会を開催し、講師から指導助言を受け、市内の幼稚園教諭・保育教諭・保育士・小学校教諭と共に学ぶ機会とする。</li> <li>□特別支援教育研究会及び実践発表会を実施する。</li> <li>□令和3年度から岩園幼稚園で試験的に実施している3歳児保育について検証・研究を行う。</li> <li>□「芦屋市接続期カリキュラム」を基に、保幼小の合同連絡会を開催する。また、5歳児を対象とし、市内の全小学校において小学校生活の模擬体験をする「小学校ごっこ」を実施する。</li> <li>□市内の就学前施設の5歳児が小学校区ごとに集まり「なかよし運動会」を実施する。また互いの施設に行き来し、交流を深める。</li> <li>□全園にて「3歳児親子ひろば」を継続実施し、在園児との定期的な交流の機会を増やす。</li> <li>□全園において、未就園児交流会、園庭開放、オープンスクールを開催し地域のセンター的な役割を担う。</li> </ul>
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>□市立幼稚園全園で、講師の先生を招いて、各園のテーマに沿って公開保育をし、市内の幼稚園教諭、保育教諭、保育士が共に学ぶ機会となった。また、特別支援教育実践報告及び研究会を3月に実施（参加者32名）、子どもの発達や具体的な支援の仕方について学んだ。</li> <li>□就学前教育研修会では、わらべうたやリトミック等実技講習と、鳴門教育大学附属幼稚園長 佐々木晃氏による幼児の発達についての講話など、幅広い分野の研修会を行った。</li> <li>□岩園幼稚園における3歳児保育については、日を分けて、市立幼稚園教諭、保育教諭、保育士が参観し、意見交流を行った。3月には、岩園幼稚園での1年間の保育について、報告会を行い、43名が参加した。</li> <li>□保幼小合同連絡会は、就学前施設から小学校への質問と小学校からの回答による資料配布と、武庫川女子大学教授 藤谷智子氏の動画配信にて行った。</li> <li>□「なかよし運動会」は新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑みて中止。</li> <li>□3歳児親子ひろばは、年間125回実施し、延べ877組の親子が参加。</li> <li>□全園において、未就園児交流会、園庭開放、オープンスクールを開催し、地域のセンター的な役割を担った。</li> </ul>



1					2			3			4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)

評価	<p>各幼稚園が主題に沿って、幼児の学びの芽生えにつながる教師の援助や環境構成について研究を進めることができた。幼稚園教育要領に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の研究に継続して取り組み、実践したことを「あしやの幼児教育」にまとめ、小中学校や就学前施設に配布し、幼児教育の理解につながった。</p> <p>岩園幼稚園の3歳児保育については、報告会において、3歳児の発達や環境構成について話を聞き、就学前研究会と共に、市内の幼稚園教諭、保育教諭、保育士が共に学ぶ場とすることができた。コロナ禍においても、子どもの居場所づくりとして、園庭解放や未就園児の遊びの広場や在園児との交流の充実を図り、地域の子育て世代に対する子育て支援や保護者支援となった。</p>
今後の課題・方向性	<p>「生きる力」の基礎を培う就学前教育は、市立幼稚園全園で各園の研究主題に基づいた公開保育を実施するとともに、就学前施設へ呼びかけ、共に学び合う機会とする。</p> <p>3歳児保育は、3歳児の発達や教育過程、また、4歳児5歳児の育ちや教育課程について、実践と研修会を通して、研鑽を重ねる。また、幼児の実体験からさらに興味関心を広げたり探求心が深まるツールの一つとしてのICTの活用を研究するほか、ICTを使って、保育の可視化を図り、保護者や地域に広く幼稚園教育を知らせる。</p> <p>「接続期カリキュラム」の実践においては、小学校・幼稚園が、公開授業・保育や連絡会等を通して、互いの教育・保育を知り、学びの接続について研究を深めていく。地域の子育てに対する子育て支援では、全市立幼稚園にて未就園児を対象とした園庭解放を年間を通して実施し、未就園児親子の居場所づくりや、未就園児と在園児との交流や子育て相談のさらなる充実を図る。</p>

### 市立幼稚園子育て支援事業（主な事業）

<所管課：管理課>

事業の概要	<p><input type="checkbox"/>預かり保育事業</p> <p>市立幼稚園において、通常の教育時間終了後及び長期休業期間中に、預かり保育を実施する。保育の必要性の認定を受けた場合、利用日数に応じて月額1.13万円までの範囲で無償化。</p> <p><input type="checkbox"/>実費徴収に係る補足給付</p> <p>市立幼稚園に就園している生活保護世帯、市町村民税非課税世帯及び市町村民税所得割額77,100円以下の世帯に対して、実費徴収となる教材費・行事費等の一部を助成する。</p>
令和3年度の目標	<p>子育て支援の一環として市立幼稚園において預かり保育を行うとともに、生活保護世帯、市町村民税非課税世帯及び市町村民税所得割額77,100円以下の世帯に対して、実費徴収分の補助を行う。</p>
実施内容	<p><input type="checkbox"/>預かり保育事業</p> <p>経費 職員報酬・職員手当等 22,414千円</p> <p>利用人数 のべ12,809人、1日平均57.0人（1日1園あたり平均11.4人）</p> <p><input type="checkbox"/>実費徴収に係る補足給付</p> <p>対象者数 25人 518千円</p>
評価	<p>市立幼稚園全体の園児数が減少している中においても、預かり保育の延べ利用人数は、横ばい傾向となっている。その要因としては、令和3年度から岩園幼稚園での3歳保育が試験的に始まったことによる、3歳の利用人数が純増したこと、また保護者の就労等で保育ニーズが高まっていることがあげられる。</p>
今後の課題・方向性	<p>幼稚園における預かり保育事業は、保護者に対する大きな子育て支援の柱となるため、引き続き保育の質を確保しつつ、保護者のニーズに合わせ適切に実施していく。</p> <p>また、各幼稚園の利用人数に応じて、預かり保育に係る職員体制を整える必要がある。</p>

1					2			3			4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)

### 教育委員会の運営（その他事業）

<所管課：管理課>

事業の概要	定例教育委員会及び臨時教育委員会の開催。 研修会及び各種行事への出席。
令和3年度の目標	教育に関する事務を執行・管理し、教育委員会を適切に運営する。
実施内容	<input type="checkbox"/> 教育委員の会議 会議の開催数：定例会11回、臨時会8回、協議会22回 議決結果：条例規則の制定5件、その他18件、継続審議0件、専決処分報告15件、報告15件計53件 <input type="checkbox"/> 研修等への参加 市町村教育委員会、教育委員会研究協議会等会議・研修への出席。

### 教育委員会その他一般事務（その他事業）

<所管課：管理課>

事業の概要	教育委員会事務局内での一般管理・維持管理費等の支払い事務、教育振興基本計画の策定及び進捗管理、教育振興基金の運用
令和3年度の目標	教育委員会事務局での一般管理事務を滞りなく遂行するとともに、第3期教育振興基本計画の進捗管理を適切に行う。
実施内容	<input type="checkbox"/> 一般管理事務：5,399千円（需用費、使用料、委員報酬及びシステム保守費用等） <input type="checkbox"/> 教育振興基金積立金：3,790千円

### 私立幼稚園子育て支援事業（その他事業）

<所管課：管理課>

事業の概要	<input type="checkbox"/> 私立幼稚園（新制度に移行していない園）の3歳（満3歳含む）から5歳の入園料・保育料を無償化（月額2.57万円上限） <input type="checkbox"/> 保育の必要性の認定を受けた場合、入園料・保育料に加え、預かり保育料等を利用日数に応じて、月額1.13万円までの範囲で無償化（満3歳は非課税世帯のみで、月額1.63万円までの範囲） <input type="checkbox"/> 市町村民税所得割額77,100円以下の世帯及び所得にかかわらず第3子以降の子どもがいる世帯に対して、実費徴収となる副食費を月額4,500円の範囲まで無償化
令和3年度の目標	子ども子育て支援制度による保育料等の無償化を適切に実施する。
実施内容	<input type="checkbox"/> 入園料・保育料の無償化 利用人数 352人 102,097千円 <input type="checkbox"/> 預かり保育料等の無償化 利用人数 118人 4,761千円 <input type="checkbox"/> 実費徴収に係る補足給付 対象者数 11人 199千円

1					2			3			4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)

## 重点目標 1 子どもたちの「生きる力」の育成と個を伸ばす教育の充実

### 基本施策 (2) 「確かな学力」の育成

- 施策の方向性
- 1 考える力や創造性を伸ばす教育の推進
  - 2 情報社会の進展に伴う教育の推進
  - 3 グローバル化に対応した教育の推進
  - 4 自立をめざしたキャリア教育の推進

#### 関連指標

No.	評価指標	単位	基準値 R1	実績 R3	目標値 R7	概要
3	中学校の数学で「授業がよくわかる」と答えた生徒の割合	%	76.1	71.2	80.0	文部科学省が実施する全国学力・学習状況調査における質問紙調査において「数学の授業の内容がよくわかる」と言う設問に対し、「当てはまる」または「どちらかというところではあてはまる」と回答した中学生の割合。
4	授業にICTを活用して指導することができた教職員の割合	%	55.3	70.0	100.0	教職員対象に実施する職場のICT化に係るアンケート調査において教職員が「授業にICTを活用して指導することができた」と回答した割合。
5	情報活用の基盤となる知識や態度について指導することができた教職員の割合	%	66.5	81.6	100.0	教職員対象に実施する職場のICT化に係るアンケート調査において教職員が「情報活用の基盤となる知識や態度について指導することができた」と回答した割合。
6	小学校の英語学習で、「これからも英語を使ってみよう」と答えた児童の割合	%	91	87.4	92.1	市教育委員会が実施する小学校外国語活動アンケート調査において、「これからも英語を使ってみよう」と言う設問に対し、「たいへんあてはまる」または「どちらかというところではあてはまる」と回答した小学校5、6年生の割合。
7	日本語指導が必要な外国人児童生徒等に対してDLAを活用した個別の支援計画に基づいた支援等の研修会に参加したことがある教職員の割合	%	-	8.7	50.0	市教育委員会が実施するDLAの活用を中心とした日本語指導が必要な外国人児童生徒等に対する指導研修会に参加したことがある教職員の割合。
8	将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合	%	小学校	小学校	小学校	文部科学省が毎年実施する全国学力・学習状況調査における質問紙調査において「将来の夢や目標を持っていますか」と言う設問に対し、「あてはまる」または「どちらかといえばあてはまる」と回答した児童生徒の割合。
			83.9	80	87.0	
			中学校	中学校	中学校	
			69.1	60.9	72.0	

1					2			3			4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)

## 学力向上支援事業（主な事業）

<所管課：学校教育課>

事業の概要	児童生徒が、学習指導要領に示された内容を理解し、基礎基本となる学力を身につけるよう支援する。
令和3年度の目標	<input type="checkbox"/> チューターを全小中学校に配置、理科推進員を全小学校に配置する。 <input type="checkbox"/> 小中学校において「学力向上パワーアッププラン」を実施する。 <input type="checkbox"/> 指定研究校で「学力向上支援プラン」実施、研究成果を公開、普及する。
実施内容	<input type="checkbox"/> チューター（学習指導員）を小中学校に、また理科推進員を小学校に配置し、きめ細かな指導をしながら、学力差の解消に向けた支援をした。 <input type="checkbox"/> 小中学校において「学力向上パワーアッププラン」を実施した。 <input type="checkbox"/> 「学力向上支援プラン」研究校の研究発表会を実施し、研究の成果を公開し普及に努めた。
評価	チューター及び理科推進員等が、教科担任と連携することで、より効果的な学習保障を行うことができた。「学力向上支援プラン」研究校の3中学校において、中学校合同授業研究会（9月30日）を実施し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組の成果を発表、交流し、自己研鑽の場となった。また、市の授業改善部会と連携することで、授業改善の取組を市内全体へ広げることができた。
今後の課題・方向性	チューターと理科推進員の配置を継続し、個に応じた指導の徹底を図ることで、学力差を解消させる。「学力向上パワーアッププラン」の実施により、各校における課題に対応した研究を進める。授業改善部会において、さらに研究を進めるとともに、中学校区を単位とした小中連携推進事業として「学力向上支援プラン」指定校の研究発表を活用しながら、学力向上に向けたさらなる小中連携に取り組む。また、一人一台の学習用端末などのICTを活用しながら、主体的に情報を収集・比較・選択し、効果的に表現する等の情報活用能力の視点を取り入れた授業を推進する。

## 国際理解教育推進事業（主な事業）

<所管課：学校教育課>

事業の概要	<input type="checkbox"/> 外国人言語指導助手（ALT）を中学校に配置する。 <input type="checkbox"/> 外国語活動を全小学校1～4年生で実施する。 <input type="checkbox"/> 外国語を全小学校5～6年生で実施する。 <input type="checkbox"/> 日本語指導が必要な児童生徒へ日本語指導ボランティアを配置する。
令和3年度の目標	<input type="checkbox"/> ALTの配置：中学校1校176日／小学校5～6年生1学級35時間／小学校1～2年生1学級10時間 <input type="checkbox"/> 地域人材の活用：小学校3～4年生1学級35時間 <input type="checkbox"/> これからも英語を使ってみたいと思う児童の目標割合：87.4% <input type="checkbox"/> 日本語指導ボランティアの配置（目標：配置人数10）。
実施内容	中学校ALT（外国人指導助手）を配置した。 小学校ALT（外国人指導助手）を1・2年生、5・6年生に配置し、英語指導を実施した。 小学校外国語活動アンケートの実施。 芦屋市内の中学生8名に中学校英語スピーチコンテストの実施。 日本語指導ボランティアを6校に配置した。（ポルトガル語・スペイン語・フィリピン語・中国語・韓国・ペルシャ語）また、芦屋市初期日本語指導教室に3人配置した。 中学生海外派遣事業の代替として、国内留学体験（キッザニアJAPAN）を実施した。

1					2			3			4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)

評価	<p>小学校にALTと地域人材を配置することは、教員の授業補助として活躍している。経験豊富な地域人材の外国語と他教科を関連させた教材は、各校の特色がある。小学校のチームティーチングと英語力向上を目指した研修に加え、評価場面や評価方法についても研修を重ねた。</p> <p>日本語指導が必要な児童生徒への支援については、日本語指導ボランティアを計画的に配置し、保護者対応のため母語ができるボランティアの派遣を行った。初期日本語指導教室を1年通して通級教室として開室した。10回の学習後に、学習した日本語を使い保護者や教員へ発表する場面を設定した。</p>
今後の課題・方向性	<p>小学校と中学校の滑らかな接続を目指したカリキュラムの研究・開発を行っていく。オンラインでの交流授業など具体的な実践を外国語担当者を中心に実践する。中学校では、デジタル教科書の活用など新学習指導要領に沿った授業や評価について研究を進める。</p> <p>日本語指導が必要な外国人児童生徒に対する日本語指導や学力補充については、芦屋市初期日本語指導教室の運営についてより効果的な運営ができるよう改善していく必要がある。また、各校の日本語指導ボランティアの研修の機会をつくる。</p>

### 学校園ICT環境整備事業（主な事業）

＜所管課：打出教育文化センター＞

事業の概要	<input type="checkbox"/> 学校園教育情報ネットワークシステムの整備 <input type="checkbox"/> 校務用コンピュータの更新、整備充実 <input type="checkbox"/> 教育用コンピュータの更新と運用保守 <input type="checkbox"/> ICT機器を活用した授業の推進 <input type="checkbox"/> コンピュータ周辺機器の整備充実 <input type="checkbox"/> 情報セキュリティの管理運用
令和3年度の目標	<input type="checkbox"/> 情報活用能力体系表をもとに情報モラルの育成やICTを効果的に活用した授業実践を集約し、各学校へ共有していく。 <input type="checkbox"/> 学校園の校務系ネットワークを再構築し、よりセキュリティの高い環境を構築する。 <input type="checkbox"/> 教育情報セキュリティポリシーをもとに作成された実施手順をもとに教職員の情報セキュリティを遵守しようとする意識を高める。
実施内容	<input type="checkbox"/> 情報活用能力体系表をもとに各校での情報モラル育成のために、冊子を作成し教職員へ周知した。また、著作権についても冊子を作成して教職員へ周知した。 <input type="checkbox"/> 学校園のネットワーク再構築は現場の要望を取り入れながら進めた。 <input type="checkbox"/> 教育情報セキュリティ実施手順を策定し、学校園へ周知した。その実施手順をもとにセキュリティ研修をオンデマンド型で実施した。令和4年1月には教育情報セキュリティアンケートを校務系ネットワークを使用する全教職員対象にして実施した。
評価	<input type="checkbox"/> 情報モラル・著作権について教職員が体系表をもとにした冊子の作成により、各校でのカリキュラム作成の示唆を得た。 <input type="checkbox"/> 学校園のネットワーク再構築は現場の要望を取り入れながら進め、円滑に移行することができた。 <input type="checkbox"/> 教育情報セキュリティ実施手順を策定し、学校園へ周知し、その実施手順をもとにセキュリティ研修をオンデマンド型で実施したことにより全教職員に対して効果的な研修が実施できた。令和4年1月には教育情報セキュリティアンケートを校務系ネットワークを使用する全教職員対象にして実施して実態把握に努め、さらなるセキュリティの強化を図ることができた。
今後の課題・方向性	<input type="checkbox"/> 国は、学習用・指導者用端末の更新についてBYOD方式を基本と考えているが、今後も国の動向を注視していく必要がある。 <input type="checkbox"/> 校務支援システムや校務系情報は本庁サーバで運用しているが、クラウド型へ移行することも視野に各市町の運用・更新についての情報収集に努める。 <input type="checkbox"/> 学校教育課と協力して情報活用能力体系表に基づいたICT利活用の授業実践がさらに積み上がるように学校現場を支援していく。 <input type="checkbox"/> 教職員の情報セキュリティや情報モラル教育、著作権への理解の啓発にさらに努める。

1					2			3			4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)

## 進路指導関係事務（主な事業）

<所管課：学校教育課>

事業の概要	<input type="checkbox"/> 県教育委員会が推進する高校教育改革への対応を行い、中学校の進路指導の充実を図る。 <input type="checkbox"/> 幼稚園、小学校、中学校の指導の段差を小さくし、公立学校の魅力を発信する。 <input type="checkbox"/> 子どもたちに自分の将来や生き方を考え、進路を切り拓く力を身につけさせる。
令和3年度の目標	<input type="checkbox"/> キャリアプランニング能力の育成を意識した取り組みを進める。 <input type="checkbox"/> 新型コロナウイルス感染拡大防止対策を遵守し、制限がある中でも個に応じた進路指導をすすめる。 <input type="checkbox"/> 令和2年度の選抜結果を分析、整理し、次年度の進路指導に活用する。
実施内容	<input type="checkbox"/> 中学校育友会主催進路協議会 年2回実施 <input type="checkbox"/> 中学校進路担当者会 年7回 <input type="checkbox"/> 進路希望調査 年3回 進路結果集約3回 <input type="checkbox"/> 神戸・芦屋地区中高連絡協議会 年3回
評価	<p>各高校のオープンハイスクールもコロナ禍により十分に行われなかった時期もあったが、タブレットを使い各校の様子や特色を把握することで具体的に進路をイメージすることができた。また、生徒一人一人が自ら進路を切り拓くために生徒に寄り添った進路指導ができた。</p>
今後の課題・方向性	<p>オープンハイスクールはタブレットを使い各自で申し込みを行う形になり、HPでは多くの情報が載っているので生徒自身が調べやすくなっている。行きたい学校を見つけ、そのために授業を大切に、確かな学力をつける工夫をしていく必要がある。</p>

1					2			3			4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)

## 重点目標 1 子どもたちの「生きる力」の育成と個を伸ばす教育の充実

### 基本施策 (3) 「豊かな心」の育成

- 施策の方向性
- 1 道徳性を育む教育の推進
  - 2 豊かな情操を育む体験活動の推進

#### 関連指標

No.	評価指標	単位	基準値 R1	実績 R3	目標値 R7	概要
9	小・中学校が連携して道徳教育を推進するため、道徳の時間の相互参観、合同研修等を実施している学校数	校	11	5	11	県教育委員会が実施する道徳教育推進状況調査において、小・中学校が連携して道徳の時間の相互参観、合同研修等を実施している学校数。

### 環境教育推進・自然学校推進事業（主な事業）

<所管課：学校教育課>

事業の概要	<p>□県補助事業</p> <p>□環境体験事業：公立小学校3年生全児童対象。地域の自然に出かけて行き、地域の人々の協力を得ながら自然観察や栽培・飼育などの五感を使って自然にふれ合う体験型学習を継続的に実施する。年間3回以上実施。＊対象地域：①里山、②田や畑、③水辺（川や海岸等）、④地域の自然</p> <p>□自然学校推進事業：公立小学校5年生全児童対象。丹波少年自然の家・県立南但馬自然学校の2施設を利用して4泊5日を過ごす。自然観察・登山・星の観察・あまごつかみ・林業体験・野外炊事・テント泊・キャンプファイヤー等実施。事前・事後指導を行う。その他：指導補助員・救急員配置。</p>
令和3年度の目標	<p>□地域の自然の中で、自然観察体験的な学習活動を通して、豊かな心や自己を見つめる力の育成を図る。</p> <p>□活動内容の精選（2泊3日や日帰りの活動）</p>
実施内容	<p>□環境体験事業の達成状況</p> <p>全小学校において里山、田や畑、水辺、地域の自然等の環境体験学習を各校1回以上実施。 参加人数：第3学年児童744名 実施場所：芦屋川、仲ノ池公園、香櫨園浜、会下山遺跡、各学校等</p> <p>□自然学校推進事業の達成状況</p> <p>参加人数：第5学年児童765名 実施場所：各学校、丹波少年自然の家、県立海洋体育館、六甲山、芦屋川</p> <p>活動内容：陶芸体験、スタンプ活動、キャンプファイヤー、藍染め体験、田植え、カヌー、クラフト、アーチェリー、星空観察、飯盒炊飯、間伐体験</p>
評価	<p>R2年に引き続き新型コロナウイルス感染症対策を講じたうえで、子どもたちが自然と触れ合い、新たな気づきが得られるように各学校が工夫して内容の精選を図った。</p> <p>自然学校推進事業では、泊を伴う（2泊3日）活動と日帰り活動を実施した。児童が地域の人や自然、文化、社会と触れ合い愛着を深めると共に、自分で考え主体的に判断し行動し、幅広い多くの感動体験を味わうことができた。また、協同生活の大変さや楽しさを体験することができた。担任等教員が児童と一緒に全てのプログラムに参加することができた。</p> <p>環境体験学習では、市内の公園などを中心に1回以上の自然に触れ合う体験活動を行い、地域の自然に触れることができた。</p>
今後の課題・方向性	<p>自然学校の指導補助員・救急員の人材発掘が課題である。提携大学を有効的に活用するなど質の高い指導補助員や救急員の人材を早めに発掘する体制を確率していく。</p> <p>環境体験事業については、身近な地域の活動を広げることが難しかった。外部講師を迎える、行政機関の協力を得る、公共交通機関使うなど活動の幅を広げる工夫をしていく。</p> <p>さらに、実態に応じた活動プログラムを精選していく必要がある。環境体験や自然学校の更なる充実を図れるよう、情報交換をしながら改善をしていく。</p>

1		2		3		4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)

## トライやる・ウィーク推進事業（主な事業）

<所管課：学校教育課>

事業の概要	<p>県の補助事業</p> <p><input type="checkbox"/>トライやる・ウィーク</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象：市立中学校2年生全員 ・時期及び期間：5月～6月 5日間</li> <li>・体験先：職場体験、福祉活動、芸術文化活動、幼児教育等を実施する市内各事業所</li> <li>・推進体制：推進委員会の設置・運営</li> <li>・指導：目的意識を明らかにする事前指導、その後の生活に活かす事後指導の実施</li> </ul> <p><input type="checkbox"/>トライやるアクション：市立中学校生徒のうち希望者が年間を通じて休日等を活用し、地域交流イベントに参加。</p>
令和3年度の目標	<p><input type="checkbox"/>キャリアプランニング能力を意識した指導を体系的な取り組みとして位置付ける。</p> <p><input type="checkbox"/>活動制限がある中だが、事業所での体験を有意義にする。</p>
実施内容	<p><input type="checkbox"/>各中学校1日トライやる体験</p> <p><input type="checkbox"/>地域清掃活動、カヌー体験、電話にて職業インタビュー、講師を招いて職についての講義を受講。</p> <p><input type="checkbox"/>マナー講師を招いて基本的なマナーの所作を学んだ。</p>
評価	<p>新型コロナウイルス感染拡大防止対策を万全にしながら、各校で様々な取り組みが行われた。生徒が主体的に考えて活動ができ、また地域の方々と限られた中でも交流ができるように工夫できた。前年度よりは活動が緩和されたため、より可能性が広がった活動ができた。</p>
今後の課題・方向性	<p>地域の方々とのふれあいは新型コロナウイルス感染拡大防止対策を万全に講じてする必要がある。1週間の活動を有意義に行うためにも事前事後学習を十分にを行い、今後の学校生活に生かす取り組みが必要である。まだまだ安心してできない状況であるため、事業所との連携を深め今後もトライやる・ウィークを進めていきたい。</p>

## 文化活動振興事業（主な事業）

<所管課：学校教育課>

事業の概要	<p><input type="checkbox"/>自由研究・教育活動展開催・自由研究冊子作成</p> <p><input type="checkbox"/>中学校総合文化祭開催</p> <p><input type="checkbox"/>造形教育展開催</p> <p><input type="checkbox"/>芦屋市吹奏楽連盟定期演奏会開催</p>
令和3年度の目標	<p><input type="checkbox"/>新型コロナウイルス感染症防止対策を講じながらも、各事業を実施する。</p> <p><input type="checkbox"/>自由研究・教育活動展開催のよりよい開催方法を考案する。</p>
実施内容	<p><input type="checkbox"/>自由研究・教育活動展の開催</p> <p><input type="checkbox"/>中学校総合文化祭実施（入場者数170人）</p> <p><input type="checkbox"/>造形教育展の開催</p> <p><input type="checkbox"/>芦屋市吹奏楽連盟定期演奏会については、密集を避けるため、二部制（午前・午後）に分け実施。（入場者数253人）</p>
評価	<p>新型コロナウイルス感染症防止対策を講じながらも、各事業を実施した。自由研究・教育活動展については、打出教育文化センター2階スペースにて出展数を制限して実施し、中学校総合文化祭については入場者の制限等規模を縮小して実施した。</p> <p>3中学校の生徒達の合唱や演奏を披露しあい、文化的な交流を行うことができた。芦屋市吹奏楽連盟定期演奏会は、密集を防ぐために午前・午後の二部制で実施した。参加者での全体合奏を行うことはできなかったが、各団体の取り組みの成果を発表する場となった。</p>
今後の課題・方向性	<p>自由研究・教育活動展は、令和3年度実施の開催方法を踏襲し、来場者アンケート等で来会者の感想を集約する。中学校総合文化祭については中学校ごとの文化的な交流をする場と文化系部活動の発表の場でもあり、芦屋市吹奏楽連盟定期演奏会を含めて継続して実施する方向で考えていく。造形教育展は、従来の会場であった美術博物館が改装工事のため使用できず、展示方法について考案していきたい。</p>



1					2			3			4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)

## 道徳教育推進事業（その他事業）

<所管課：学校教育課>

事業の概要	<input type="checkbox"/> 「道徳科」の充実に向け、全ての教員の道徳教育に関する実践的な指導力向上のための研修を行う。 <input type="checkbox"/> 「考え、議論する道徳」の授業の充実をめざして、子どもたちが主体的・対話的に学ぶための指導と教科の研究を進める。
令和3年度の目標	<input type="checkbox"/> 小・中学校が連携して、「特別の教科 道徳」の時間の相互授業参観、合同研修を実施する。 <input type="checkbox"/> 「考え、議論する道徳」の授業の充実をめざして、子どもたちが主体的・対話的に学ぶための指導と評価の研究の充実を図る。
実施内容	<input type="checkbox"/> 道徳教育の推進 <input type="checkbox"/> 副読本や教材の有効活用 <input type="checkbox"/> 研修会の参加調整 <input type="checkbox"/> 道徳教育実態調査の実施 <input type="checkbox"/> 道徳教育教材の整備

1					2			3			4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)

## 重点目標 1 子どもたちの「生きる力」の育成と個を伸ばす教育の充実

### 基本施策 (4) 「健やかな体」の育成

- 施策の方向性
- 1 体力向上の取組の推進
  - 2 健康教育及び食育の推進

#### 関連指標

No.	評価指標	単位	基準値 R1	実績 R3	目標値 R7	概要
10	全国体力・運動能力調査結果で 全国平均以上の種目の割合	%	6.3	31.2	20.0	文部科学省が実施する小学校5年生から中学校3年生までの各学年の男女別に実施する全国体力・運動能力調査全80種目において、全国平均以上となった種目の割合。

#### 学校体育振興事業（主な事業）

<所管課：学校教育課>

事業の概要	<input type="checkbox"/> 体育的行事の活性化 <input type="checkbox"/> スポーツテストの実施 <input type="checkbox"/> 体育関係教師の指導力向上	<input type="checkbox"/> 各種スポーツ大会への積極的参加と交流 <input type="checkbox"/> 体力向上に向けた取り組み実施 <input type="checkbox"/> 全国、県との比較と実態把握
令和3年度の目標	<input type="checkbox"/> 運動の日常化へ向けた環境整備 <input type="checkbox"/> 体力・運動能力調査（スポーツテスト）をいかした授業づくり <input type="checkbox"/> 幼小中の授業公開を通じた教師の交流 <input type="checkbox"/> 部活動支援員の配置 <input type="checkbox"/> 部活動外部指導者に係る規則等の整備	
実施内容	<input type="checkbox"/> 体力・運動能力調査の実施 <input type="checkbox"/> 小学校体育担当者が中心となり公開授業を開催。また、保育公開授業に小学校教員が参加し、協議を行う。 <input type="checkbox"/> 学校間のスポーツ交流会の開催を通して体を動かすことの楽しさを感じる機会を増やす。（開催中止）	
評価	幼稚園の保育公開に対して小学校教員が参加し、体力向上を通して幼小連携を推進した。 また、地域で部活動に代わり得る質の高い活動機会の確保について、令和元年11月から、スポーツ推進課、市体育協会と連携し、今後の取組について話し合いを進めることができた。 運動体育ハンドブック（教師用指導資料）を活かしながら、授業づくりや指導方法について示すことができた。	
今後の課題・方向性	幼小の連携に加えて小中との交流をさらに図った取組が必要である。 打出教育文化センターの体力向上部会等との連携を図り、市内全体の幼児児童生徒の体力向上施策として、教員の指導力向上を目指した授業研究を充実させていくとともに体力運動能力調査結果を踏まえて、系統的な課題への取り組み方法についても研究していく必要がある。 地域で部活動に代わり得る質の高い活動機会の確保について、他関係機関と引き続き連携していく必要がある。	

1		2		3		4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)

## 学校給食関係事務（主な事業）

<所管課：学校教育課>

事業の概要	<input type="checkbox"/> 給食施設等の衛生管理指導 <input type="checkbox"/> 学校給食展の実施 <input type="checkbox"/> 学校給食関係団体との連絡調整 <input type="checkbox"/> 排水槽、排気ダクト等清掃業務委託事務 <input type="checkbox"/> 予備調理員の配置 <input type="checkbox"/> 給食費公会計における事務 <input type="checkbox"/> 食物アレルギー対応マニュアルの有効活用	<input type="checkbox"/> 給食用食器破損補充等、給食室の消耗品整備事務 <input type="checkbox"/> 献立研究会及び学校給食連絡協議会の実施 <input type="checkbox"/> 学校給食に関する助成事務 <input type="checkbox"/> 給食室害虫駆除委託に係る事務 <input type="checkbox"/> 予算執行事務 <input type="checkbox"/> 食育の推進 <input type="checkbox"/> 学校給食衛生管理マニュアルの活用
令和3年度の目標	<input type="checkbox"/> 安全安心で質の高い学校給食の提供 <input type="checkbox"/> 0-157をはじめとする食中毒等の徹底した衛生管理 <input type="checkbox"/> 食物アレルギー対応マニュアルに沿ったアレルギー対応の徹底 <input type="checkbox"/> 給食費公会計における事務の円滑な遂行 <input type="checkbox"/> 食育の推進	
実施内容	<input type="checkbox"/> 小中学校給食費公会計の遂行 <input type="checkbox"/> 学校給食連絡協議会（6月・2月 新型コロナウイルス感染拡大防止のため書面開催） <input type="checkbox"/> 学校給食展の実施 日時:7月28日～8月2日 場所：芦屋市公民館ギャラリー <input type="checkbox"/> 献立研究会（月1回） <input type="checkbox"/> 学校給食調理従事者衛生研修会（1月）	
評価	<p>給食費の収滞納管理業務は、公会計システムを使い円滑な事務を行うことができた。芦屋市異物混入マニュアル・芦屋市学校給食衛生管理マニュアル（各改訂版）に基づき、衛生研修会を実施するなど衛生管理に努め、安全安心な学校給食を提供した。</p> <p>新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「味覚の授業」や料理セミナーは実施できなかったが、学校給食展の実施（展示のみ）、給食レシピ本の販売、給食レシピのクックパットへの掲載など、芦屋市の学校給食について理解を深めてもらう取り組みを魅力発信につなげることができた。</p>	
今後の課題・方向性	<p>中学校も含め全学校において、教育活動全体を通して、学校給食を「生きた教材」とした地産地消も取り入れた食育の推進に努める。</p> <p>衛生管理・異物混入及び食物アレルギー事故の防止は、さらなる未然防止に努める。給食費は、引き続き適正な金額について検討を行う。</p>	

## 中学校部活動推進事業（主な事業）

<所管課：学校教育課>

事業の概要	<input type="checkbox"/> 部活動推進事業実施委員会を設置し、部活動の運営と振興にあたる <input type="checkbox"/> 研修会の実施 <input type="checkbox"/> 校舎建て替えに伴う練習場所の確保	<input type="checkbox"/> 部活動支援員や部活動技術指導者の配置、有効活用 <input type="checkbox"/> 年間指導計画・報告書の作成 <input type="checkbox"/> 中学校体育連盟との連携
令和3年度の目標	<input type="checkbox"/> 地域移行に向けた準備を進める。 <input type="checkbox"/> 新型コロナウイルス感染拡大防止対策をしながら工夫した活動を心掛ける。 <input type="checkbox"/> 部活動支援員や技術指導者を配置し、指導の充実を図る。	
実施内容	<input type="checkbox"/> 精道中建て替えに伴う運動部の練習場所確保 <input type="checkbox"/> 地域部活動移行に向け、芦屋市体育協会・スポーツ推進課と協議 <input type="checkbox"/> 芦屋市部活動ガイドラインに沿った部活動の運営促進 <input type="checkbox"/> 部活動技術指導者及び部活動支援員に配置 <input type="checkbox"/> 部活動推進事業運営業務委託	

1					2			3			4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)

評価	各学校における部活動のガイドラインが定着し、安全で望ましい部活動を行うことができた。平日、休日の休養日の設定も守り、生徒・顧問にとって適切な活動時間で休息を取り入れながら活動ができた。部活動技術指導者および部活動支援員の配置により、顧問が部活動にかかわる時間を減少させ、働き方改革の面でも成果が出ている。地域部活動の実施に向けて課題はあるが、あらゆる面で議論を進められた。新型コロナウイルス感染拡大防止対策により、十分に活動できない期間もあったが各部が工夫をしながら進められた。
今後の課題・方向性	地域部活動への円滑な移行が進むためにも多くの議論がまだまだ必要である。各競技において指導者確保やそれに伴う対価、生徒指導面などスポーツ庁が掲げる問題以外にも考察する必要があるものが多くあるため、より良い方策を模索しながら今後も協議する必要がある。

### 学校保健関係事務（主な事業）

<所管課：学校教育課>

事業の概要	<input type="checkbox"/> 校医検診 ① 対象 全幼児児童生徒                      ② 実施時期 4月～6月 ③ 内容 内科、外科、耳鼻科、眼科、歯科の校医による健康診断 <input type="checkbox"/> 業者による検診 ① 対象 該当学年の幼児児童生徒    ② 実施時期 4月～6月 ③ 内容 (全学校園)尿検査・(該当学年のみ)心電図検査・脊柱検診 <input type="checkbox"/> 医師会、歯科医師会、薬剤師会との研修 ① 対象 養護教諭(一部幼稚園の養護員を含む) ② 実施時期 11月～2月 ③ 内容 学校保健、歯科保健、環境衛生に関わる情報共有 <input type="checkbox"/> 学校環境衛生検査 ① 対象 全学校園                                      ② 実施時期 通年 ③ 内容 飲料水およびプールの水質、空気、照明、騒音の検査
令和3年度の目標	検診について、円滑に進むよう改善等を行いながら実施する。
実施内容	<input type="checkbox"/> 検診実施項目 ①校医検診 内科、耳鼻科、外科、眼科、歯科 ②業者検診 心電図(小1・4、中1)、検尿、脊柱検診(小5、中2) ③その他 心臓2次検診、聴力・視力検査、結核検診 <input type="checkbox"/> 三師会との研修会 ① 医師会(紙面報告) ② 歯科医師会(紙面報告) ③ 薬剤師会(紙面報告) <input type="checkbox"/> 学校保健大会 動画配信にて開催 <input type="checkbox"/> 学校環境衛生検査 ①飲料水、空気、照明、騒音の検査(プールの水質検査は1校のみ)
評価	コロナ禍の中ではあったが、各校感染症対策を講じながら、検診をすべて実施することができた。子どもたちが安心して安全に学校生活を送れるように適切に環境衛生検査を実施することができた。
今後の課題・方向性	コロナ禍の状況を鑑みながら、子どもたちが健康で学校生活を送れるように引き続き、計画的に事業を実施できるように努める。

1					2			3			4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)

## 重点目標 1 子どもたちの「生きる力」の育成と個を伸ばす教育の充実

### 基本施策 (5) 特別支援教育の推進

- 施策の方向性
- 1 多様な教育的ニーズに対応した指導の充実
  - 2 相談・支援体制の充実

#### 関連指標

No.	評価指標	単位	基準値 R1	実績 R3	目標値 R7	概要
11	特別支援教育に係る研修会、研究会の参加者数	人/年	516	216	500	市教育委員会が実施する教職員を対象とした特別支援教育に係る研修会、研究会の年間延べ参加者数。

### 特別支援教育推進事業（主な事業）

<所管課：学校教育課>

事業の概要	<input type="checkbox"/> 専門家による巡回相談を実施する。 <input type="checkbox"/> 障がいのある幼児児童生徒の就学に向けた教育支援委員会を開催する。 <input type="checkbox"/> 特別支援教育支援員・介助員・指導補助員を配置する。 <input type="checkbox"/> ケースワーカーの派遣を専門機関に委託する。 <input type="checkbox"/> 特別支援教育コーディネーターや特別支援学級担当者を対象とした研修会を実施する。
令和3年度の目標	<input type="checkbox"/> 特別支援教育では、障がいのある子どもの発達段階や特性、教育的ニーズを十分に把握し、個別の指導計画に基づいた教育を進める。また、県立特別支援学校及び関係機関との連携の強化に努め、学校におけるインクルーシブ教育についての研究も積極的に進めていく。 <input type="checkbox"/> インクルーシブ教育システム構築に向けて全校園での取組体制を行う。 <input type="checkbox"/> 特別支援教育支援員を小中全校に配置し、個別の支援の充実を図る
実施内容	<input type="checkbox"/> 特別支援教育に係る研修会・研究会を開催し、特別支援教育への理解と専門性の向上を図った。 <input type="checkbox"/> 特別支援教育センター専門指導員による巡回指導をし、支援の必要な幼児児童生徒への個別の支援の充実に努めた。 <input type="checkbox"/> 特別支援教育支援員、介助員等を学校園に配置し、特別な支援を要する幼児児童生徒を支援した。 （支援員12人、介助員18人、看護員2人、幼稚園支援員5人、加配教諭5人、幼稚園看護員2人）
評価	コロナ禍のため、人数制限をしながら開催したり、中止となったりした研修会もあったが、特別支援コーディネーター会では、役割や個別の支援計画、合理的配慮等について確認することができた。（研修会全体の参加者（R1）516人（R2）42人（R3）216人） 特別支援教育センターの合理的配慮コーディネーターを中心に定期的に学校園を訪問し、教員や特別支援教育に係る幼児児童生徒への指導助言を行うことで個別の支援の充実に努めることができた。 （教員への指導助言 131回）各学校園に、特別支援教育支援員、介助員、看護員（訪問看護師）を計画的に配置することにより、幼児児童生徒の支援を行うことができた。
今後の課題・方向性	特別支援教育に係る研修会は、参加者数もさることながら、誰に対してどのような内容の研修を行うのかを定め、計画的、効率的な研修を行う必要がある。個別の指導計画等の特別な教育課程の内容をしっかりと精査し、児童生徒の成長に合わせた指導ができるよう、内容の見直しを行う必要がある。 インクルーシブ教育システム構築の視点に立った支援の充実や医療的ケアが必要な幼児児童生徒への人的支援も含めた個別の支援の充実を図る必要がある。特別支援学級担当者会の中で、教育課程の編成についての基本的な考え方や福祉との連携等について学んだり、障がい種別の研修等を行ったりして、さらに専門性の向上を図っていききたい。

1					2			3			4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)

## 重点目標 2 命と人権を大切にす教育の充実

### 基本施策 (1) 人権尊重の理念に基づく「共生」の心の育成

- 施策の方向性
- 1 人権を大切にす教育の推進
  - 2 「共生」の心を育む教育の推進

#### 人権教育推進事業（主な事業）

<所管課：学校教育課>

事業の概要	学校に対し人権教育の全体計画及び年間指導計画の作成を指導する。教職員が研修を通して、指導力の向上を図れるようにする。また、県内の研修会への参加を指導し教職員の人権意識の向上につなげる。
令和3年度の目標	人権教育担当者会や研修会の実施、地域・保護者や関係機関との連携を通して、人権教育の重要性に対する意識を高めるとともに、共生教育の充実を図る。
実施内容	<input type="checkbox"/> 小・中学校人権教育担当者会を書面開催した（1回・11人） <input type="checkbox"/> 学校園の実態を踏まえ、子どもの発達段階に応じた人権教育（平和、同和など）を計画的に実施した。
評価	各学校の担当が中心となり、年間計画・目標を作成し、それを基に全教職員で人権教育を推進した。各学校園が学期ごとに教科等や保育での実践を報告し、その後の取り組みに生かすことができた。また、全小中学校で人権作文に取り組み、人権意識の高揚に努め人権作文集「ふれあい」を発行した。
今後の課題・方向性	性的マイノリティ（LGBTQ）や、新型コロナウイルス感染症に関する差別の問題等、今日的な人権課題に対する理解を深める研修に取り組んでいく必要がある。

#### 人権教育推進（主な事業）

<所管課：生涯学習課>

事業の概要	<input type="checkbox"/> 社会の変化に対応する様々な人権に関する学習活動の推進支援を行う。
令和3年度の目標	<input type="checkbox"/> 芦屋市人権教育推進協議会の活動がより円滑に、かつ充実するよう支援する。
実施内容	<input type="checkbox"/> 芦屋市人権教育推進協議会への補助金交付 847,533円 <input type="checkbox"/> 学校、幼稚園、保育所等への啓発冊子の配布 <input type="checkbox"/> 成人式での啓発グッズ（ボールペン）の配布 <input type="checkbox"/> 人権教育啓発用DVDの購入 <input type="checkbox"/> 芦屋市人権教育推進協議会研究大会全体会(中止) <input type="checkbox"/> 芦屋市人権教育推進協議会研究大会分科会(報告集での発表)
評価	新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、芦屋市人権教育推進協議会研究大会の全体会が中止となり、分科会は報告集での発表となった。
今後の課題・方向性	今後も啓発活動の継続に取り組むため、引き続き芦屋市人権教育推進協議会との連携をより一層図っていく。

1					2			3			4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)

## 重点目標 2 命と人権を大切にする教育の充実

### 基本施策 (2) 子どもの内面理解に基づく生徒指導の充実

- 施策の方向性
- 1 いじめ等問題行動の防止の徹底
  - 2 不登校へのケアと支援の充実

#### 関連指標

No.	評価指標	単位	基準値 R1	実績 R3	目標値 R7	概要
12	中学校における不登校生徒の割合	%	5.4	7.0	4.0	文部科学省が実施する児童生徒の問題行動等生徒指導に関する調査において、中学校で不登校により年間30日以上欠席した生徒の割合。

#### 生徒指導対策事業（主な事業）

<所管課：学校教育課>

事業の概要	児童生徒の健やかな成長を支援する取組を推進する。芦屋市生徒指導連絡協議会を開催し、近隣校や保護者、地域、関係機関との連絡を密にする。生徒指導担当を中心に登校指導や巡回指導を行う。
令和3年度の目標	<input type="checkbox"/> スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを継続的に配置し、生徒指導のサポート体制を作る。 <input type="checkbox"/> 小さな事案も見逃さず、未然防止・再発防止に努める。
実施内容	<input type="checkbox"/> スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを継続的に配置 <input type="checkbox"/> 中学校の校則見直し <input type="checkbox"/> 芦屋市生徒指導連絡協議会を実施し、研修機会も行う <input type="checkbox"/> いじめについても積極的に認知し、小さな事案も丁寧に対応 <input type="checkbox"/> いじめアンケートを各学期に1回実施 <input type="checkbox"/> 阪神間で連携を取り、様々な事案の対応について協議
評価	芦屋市生徒指導連絡協議会を月に1回実施し、情報共有、各事案について検討を重ね、関係機関にも助言していただき、より良い指導につなげられるよう共通理解することができた。いじめアンケートを年3回実施し、いじめの定義に沿って積極的に認知し、早期対応し、問題が大きくならないように指導ができた。年々増加傾向のある不登校に関しても研修を行い、不登校を増やさないことを心掛けたが、今後も重点課題として継続した取組が必要である。
今後の課題・方向性	今後も教師がアンテナを張り、小さなことでも見逃さずに適切なタイミングでの指導や保護者との連携を図っていく必要がある。また不登校生については様々な角度で考察し、研修を重ね、登校しやすい環境をつくるべくまずは授業を大事に受けられる工夫がいる。またスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーをはじめ各関係機関と連携を図りながら問題解決のために今後も迅速かつ円滑な対応が進められるようにしていくことが大事である。

#### 適応教室実施事業（主な事業）

<所管課：学校教育課>

事業の概要	<input type="checkbox"/> 小中学校の不登校児童生徒で、適応教室在籍児童生徒に対し、学校復帰に導く指導を行う。 <input type="checkbox"/> 在籍児童生徒の保護者への教育相談及び保護者会を開催する。 <input type="checkbox"/> 引きこもり傾向の児童生徒への家庭訪問による支援を行うとともに、小中学校・関係機関との連携を図る。
令和3年度の目標	学校訪問、不登校担当者会やケース会議の参加等により学校との連携を深めるとともに、不登校児童生徒への支援について助言し、適応教室に在籍する児童生徒に対し学校復帰や社会的自立を目指した指導を行う。

1					2			3			4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)

実施内容	<input type="checkbox"/> 在籍児童生徒へ学校復帰や社会的自立を目指した指導を行った。 在籍児童生徒数31名（部分復帰9名、完全復帰3名） <input type="checkbox"/> 担当者会・研修会の実施 研修会1回、担当者会中止（新型コロナウイルス感染症に伴う影響のため） <input type="checkbox"/> 適応教室在籍児童生徒の保護者及び不登校で悩む保護者・児童生徒への教育相談を行った。また、学期ごとに懇談会を開催した。 教育相談241回
評価	学校との連携を密にし、家庭訪問、個に応じた学習指導や進度指導のほか、登校支援、社会的自立を目指した指導を行い、12名の児童生徒が学校へ部分復帰又は完全復帰できた。特に、教育相談を在籍児童生徒保護者もしくは本人に対し、複数回実施し、該当児童生徒の実態を関係諸機関で共有し、それぞれの機関で最適な指導を進めることができた。また、適応教室の指導員の研修会を定期的に行い、「愛着に課題がある児童生徒への対応法」について協議を行い、それを基にし、それぞれの児童生徒の実態に即した指導方針を策定した。指導方針については、各学校にも周知し、不登校児童生徒への適切な対応を進めることができた。
今後の課題・方向性	部分復帰、完全復帰した児童生徒に対しては、学校や保護者と連携してきめ細やかな指導を継続する。新たな不登校児童生徒を生み出さないよう、「不登校の未然防止」の取組を更に強化し、先進的な取組を市内小中学校にも共有できる機会を創出する。また、研修等を通じて、児童生徒の心の捉え方を中心とした各学校のカウンセリング機能の充実を図るとともに、各学校の教員や保護者の相談窓口として、適応教室の役割を充実させる。学校や適応教室だけでは対応が難しい事案については、関係機関との連携をスムーズに取ることができるようにする。

## カウンセリングセンター管理運営事業（主な事業）

<所管課：学校教育課>

事業の概要	専門カウンセラー、電話相談員が対応した教育相談によって児童・生徒の健全育成に資する。対象は、児童・生徒・教師・保護者。
令和3年度の目標	児童生徒の健全育成及び保護者、教師のカウンセリングを行い、心身の安定を図るとともに、学校教育課と定期的に情報交換を行い、支援にあたる。
実施内容	<input type="checkbox"/> 芦屋市カウンセリングセンターに業務委託し、実施した。 電話相談133件、面接相談167件 <input type="checkbox"/> 学校教育課と連携し、支援を行った。
評価	従来、打出教育文化センターで受付を行っていた教育相談についても、令和3年度よりカウンセリングセンターにて全て対応することとなった。相談件数は、昨年度比155%増となり、不登校等様々な悩みを抱えた児童生徒及び保護者の相談窓口として定着した。また、学校教育課との連携も定期的に行っているため、必要があれば教育相談等の結果を各学校の教員に伝え、児童生徒の状況に応じた適切な対応につなげている。
今後の課題・方向性	虐待・いじめ等の深刻なケースは、即座の対応が必要となるため、市内の各相談機関の連携をより一層強めていきたいと考えている。そのために、定期的な連絡会を設け、より適切な連携方法を模索していきたい。また、より多くの子育ての悩みに対応できるよう、カウンセリングセンターの概要についての周知を継続的に図っていきたい。



1					2			3			4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)

## 重点目標 2 命と人権を大切にす教育の充実

### 基本施策 (3) 防災・安全教育の推進

- 施策の方向性
- 語り継ぐ芦屋の防災教育の推進
  - 地域と連携した安全教育の推進

#### 関連指標

No.	評価指標	単位	基準値 R1	実績 R3	目標値 R7	概要
13	通学路合同点検において確認された危険箇所（市が実施主体となる箇所のみ）の改善割合	%	100.0	100.0	100.0	芦屋市通学路安全プログラムに基づき実施した合同点検において要望のあった危険箇所の改善割合。

#### 防災・安全教育推進事業（主な事業）

<所管課：学校教育課>

事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>教職員が、防災に関する知識、技能を身につけることにより、危機管理能力の向上を図る。また、防災安全課と連携した防災訓練を実施する。</li> <li><input type="checkbox"/>兵庫県の「震災・学校支援チーム（EARTH）」等の活用により、幼児児童生徒の防災に関する実践的な態度や能力の育成に努める。</li> <li><input type="checkbox"/>安全担当者会の開催</li> <li><input type="checkbox"/>安全教育に係る年間指導計画の作成</li> <li><input type="checkbox"/>交通安全教室の実施（芦屋警察署・建設総務課との連携事業） →幼稚園・小学校1年生（歩行訓練）、小学校4年生・中学生（自転車教室）</li> <li><input type="checkbox"/>応急手当講習会の実施（対象：教職員）消防本部との連携事業</li> <li><input type="checkbox"/>防犯訓練、防犯教室の実施</li> <li><input type="checkbox"/>通学路合同点検（「芦屋市通学路安全プログラム」に基づき実施）</li> <li><input type="checkbox"/>新規「子ども110番」プレートの周知・配布</li> <li><input type="checkbox"/>新1年生防犯ブザーの貸与</li> </ul>
令和3年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・阪神淡路大震災を風化させないため、震災から学んだことなどを語り継ぐとともに、災害に備える防災・減災の教育を進める。</li> <li>・「学校園における避難所開設及び運営マニュアル」に基づき、地域と連携し避難所運営の具体的な取組を進める。</li> <li>・安全教育の指導方法や教育手段の開発・普及について専門家の助言を受け、学校における安全教育の充実を図る。</li> </ul>
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/>各学校園で様々な場面を想定した避難訓練を実施し、子どもや教職員の防災意識を高めるように努めた。 避難訓練実施回数94回（小中学校32回、幼稚園62回）</li> <li><input type="checkbox"/>各学校園で「1.17は忘れない」の集いを実施した。</li> <li><input type="checkbox"/>各学校園で、緊急地震速報訓練に伴うシェイクアウト訓練や避難訓練を実施した。</li> <li><input type="checkbox"/>土砂災害警戒区域内の各学校及び川からの浸水・津波の発生のある各学校園に避難確保計画の策定を指導し、避難訓練の実施を促した。</li> <li><input type="checkbox"/>感染症に対応した避難所開設及び運営についての協議を深め、各学校園のゾーニングの実施を進めた。</li> <li><input type="checkbox"/>幼稚園・小学1年生での歩行訓練、小学4年生・中学生の自転車教室（講習）を専門家の指導を受けて実施し、児童生徒等や保護者への交通ルール啓発を行った。</li> <li><input type="checkbox"/>総合警備保障(株)と連携し、小学2年生を対象に防犯教室を実施した。</li> <li><input type="checkbox"/>山手中学校区の小学校（山手・岩園・朝日ヶ丘）の通学路点検を芦屋警察署等関係機関と合同で実施し、安全・防犯対策について協議した。</li> </ul>

1					2			3			4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)

<p>評価</p>	<p>防災教育は、「いのち」を守る防災マニュアルをもとに、新型コロナウイルス感染症防止対策を講じながら、水平避難等各学校園が地域の状況に応じた避難訓練を行った。各学校園で1. 17関連行事を行い、震災を語り継ぐ取組を継続した。岩園小学校区において、地域と連携した避難所開設・運営について、地域の意見を反映したマニュアルを完成させた。また、土砂災害警戒区域内及び河川の氾濫による浸水想定区域、津波の発生の恐れのある各学校園で避難確保計画の策定を指導した。</p> <p>安全教育は、芦屋警察署等の関係機関、愛護委員やPTA等の地域住民と連携した安全教育を実施した。</p>
<p>今後の課題・方向性</p>	<p>防災教育は、避難訓練は各学校園で複数回実施しているが、想定外の事象にも対応した実践的な訓練を進めていく必要がある。また土砂災害や浸水に加え、高潮の被害を想定した訓練を推進していきたい。岩園小学校区で完成したマニュアルをモデルとし、他の学校園でも地域との連携を進めていく必要がある。</p> <p>安全教育は、新型コロナ感染拡大防止のため、通学路点検を行政関係者のみで実施し、自治会等地域住民へ書面で結果を報告した。「子どもを守る110番の家・店」は、高齢や転居を理由とする辞退もあるため、今後も市広報掲載や各校PTAとの連携を通じて新規開拓に努める必要がある。</p>

1					2			3			4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)

## 重点目標 3 地域社会総がかりの教育施策の推進

### 基本施策 (1) 学校園・家庭・地域の連携による支援

- 施策の方向性
- 1 子どもの居場所づくりの推進
  - 2 地域と連携した青少年の健全育成
  - 3 地域による学校支援の推進
  - 4 困難を有する子ども・若者の包括的な支援
  - 5 家庭・地域の教育力の向上

#### 関連指標

No.	評価指標	単位	基準値 R1	実績 R3	目標値 R7	概要
14	あしやキッズスクエア及び校庭開放の開催日数	日/年	1,815	1,432	2,035	あしやキッズスクエア及び校庭開放の開催日数。
15	青少年の自主的活動（青少年リーダー及び青少年ボランティア）者数	人/年	440	215	600	芦屋市子ども会連絡協議会、あしやキッズスクエアにおける青少年リーダー及びボランティアの年間延べ活動者数。
16	放課後児童健全育成事業の待機児童数	人	0	0	0	年度当初における放課後児童健全育成事業の利用申請をした児童で、定員等の関係で利用できなかった児童数。
17	あしやキッズスクエアでのプログラム実施回数	回/年	784	106	800	あしやキッズスクエアで開催するプログラムの実施回数。
18	学校支援ボランティアグループの活動実施日数	日/年	651	701	700	学校支援ボランティアグループの活動延べ日数。
19	若者相談センター「アサガオ」の支援対象者数	人/年	116	107	150	若者相談センター「アサガオ」支援対象年間実人数。

### 学校園・家庭・地域の教育推進支援事業（主な事業）

<所管課：生涯学習課>

事業の概要	<input type="checkbox"/> コミュニティ・スクールの運営を、地域の住民が自主的に運営できるよう側面から支援する。 <input type="checkbox"/> 子どもたちが放課後などを安全・安心に過ごせる居場所として、放課後プラン事業（校庭開放）を実施する。 <input type="checkbox"/> 市内の各小学校区において、学校・家庭・地域が連携することにより、子どもたちが地域社会の中で、心豊かで健やかに育まれる環境づくりを推進する。 <input type="checkbox"/> 家庭での教育力向上を推進する。
令和3年度の目標	<input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール活動への継続した支援 <input type="checkbox"/> PTA活動への継続した支援 <input type="checkbox"/> 放課後プラン事業（校庭開放）の円滑な運営 <input type="checkbox"/> 地域子育て事業の実施
実施内容	<input type="checkbox"/> コミュニティ・スクール：文化活動発表会、研修会など地域コミュニティを醸成する事業を支援 ・コミュニティ・スクール連絡協議会への補助金 118,000円 ・9コミュニティ・スクールへの補助金 各270,000円（戻入138,231円） <input type="checkbox"/> PTA活動の支援 芦屋市PTA協議会への補助金 781,000円 <input type="checkbox"/> 校庭開放事業 実施回数 89回 延べ参加人数 683人 <input type="checkbox"/> 学校支援ボランティア連絡会の開催 1回 活動日数延べ701日 活動参加者数延べ3,062人

1					2			3			4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)

評価	<p>昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえた上で、活動・支援を実施した。コミュニティ・スクール関係では、継続して団体補助金による支援を行うとともに、学校・地域・家庭の連携の場を提供し、地域の教育力の向上が図られた。</p> <p>地域子育て事業では、あしや学校支援ボランティア連絡会に出席して状況を把握し、連携・支援を図った。</p>
今後の課題・方向性	<p>コミュニティ・スクール関係では、学校・地域・家庭の連携の場を継続して提供し、コミスク活動を通して地域の教育力の向上を図る。</p> <p>放課後プラン事業では、引き続き、校庭開放事業による児童の安全・安心な居場所を確保していく。</p> <p>地域子育て事業では、今後も学校園・家庭・地域が主体となって活動を継続していく中で、新たな支援者の確保と定着、リーダーの育成を支援する必要がある。</p>

### あしやキッズスクエア事業（主な事業）

<所管課：青少年育成課>

事業の概要	<p>放課後等に小学校の施設を利用し、地域の方々の見守り等の参画を得て、子どもたちが安全で安心して過ごせる環境を提供する。併せて企業・NPO・高校・大学・地域住民の多様な参画を得て、子どもたちに様々な体験・交流活動の機会を提供することにより異世代・異年齢の交流を促進し、遊び等を通じて豊かな人間性が育まれる放課後の居場所を提供する事業として「あしやキッズスクエア」を実施する。</p>																																																		
令和3年度の目標	<p>全8小学校で実施するキッズスクエアにおいて、引き続き新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、児童の安全、スタッフの安全を確保した上で、放課後の居場所づくり事業を継続する。</p> <p>体験プログラムについては、オンラインでの開催を更に取り入れるなどにより、児童に多様な経験と新たな発見の場を提供していく。</p>																																																		
実施内容	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th></th> <th>登録児童数</th> <th>登録率</th> <th>開催日数</th> <th>1日平均利用者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・精道小学校</td> <td>224名</td> <td>34%</td> <td>169回</td> <td>19.8名</td> </tr> <tr> <td>・宮川小学校</td> <td>268名</td> <td>44%</td> <td>167回</td> <td>28.0名</td> </tr> <tr> <td>・山手小学校</td> <td>203名</td> <td>32%</td> <td>165回</td> <td>17.0名</td> </tr> <tr> <td>・岩園小学校</td> <td>235名</td> <td>30%</td> <td>167回</td> <td>14.1名</td> </tr> <tr> <td>・朝日ヶ丘小学校</td> <td>136名</td> <td>42%</td> <td>171回</td> <td>10.5名</td> </tr> <tr> <td>・潮見小学校</td> <td>210名</td> <td>35%</td> <td>169回</td> <td>22.4名</td> </tr> <tr> <td>・打出浜小学校</td> <td>210名</td> <td>45%</td> <td>167回</td> <td>18.1名</td> </tr> <tr> <td>・浜風小学校</td> <td>99名</td> <td>34%</td> <td>168回</td> <td>14.6名</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,585名</td> <td>36%</td> <td>1,343回</td> <td>18.0名</td> </tr> </tbody> </table>		登録児童数	登録率	開催日数	1日平均利用者数	・精道小学校	224名	34%	169回	19.8名	・宮川小学校	268名	44%	167回	28.0名	・山手小学校	203名	32%	165回	17.0名	・岩園小学校	235名	30%	167回	14.1名	・朝日ヶ丘小学校	136名	42%	171回	10.5名	・潮見小学校	210名	35%	169回	22.4名	・打出浜小学校	210名	45%	167回	18.1名	・浜風小学校	99名	34%	168回	14.6名	計	1,585名	36%	1,343回	18.0名
	登録児童数	登録率	開催日数	1日平均利用者数																																															
・精道小学校	224名	34%	169回	19.8名																																															
・宮川小学校	268名	44%	167回	28.0名																																															
・山手小学校	203名	32%	165回	17.0名																																															
・岩園小学校	235名	30%	167回	14.1名																																															
・朝日ヶ丘小学校	136名	42%	171回	10.5名																																															
・潮見小学校	210名	35%	169回	22.4名																																															
・打出浜小学校	210名	45%	167回	18.1名																																															
・浜風小学校	99名	34%	168回	14.6名																																															
計	1,585名	36%	1,343回	18.0名																																															
評価	<p>新型コロナウイルス感染症対策により、令和3年9月6日～9月30日、令和4年1月19日～3月21日の2度にわたり事業を休止した。その他の期間についても、必要に応じて、体験プログラムや高校生ボランティアを休止しつつ、放課後の居場所づくり事業として継続して実施し、8小学校延べ1,343回の開催を果たした。</p>																																																		
今後の課題・方向性	<p>今後も、手洗い、消毒の徹底を行い、安全な居場所づくりを最優先に、オンラインも含めた新たな体験プログラムについて、子ども達への機会提供として何ができるかを考え、事業を進めていく必要がある。</p>																																																		

1					2			3			4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)

## 青少年保護対策事業（放課後児童クラブ）（主な事業）

<所管課：青少年育成課>

事業の概要	子育て世代の就労支援、育児支援のため、適切な保護育成が必要な小学校1年生から6年生を対象に、遊びや集団生活の場を提供する。
令和3年度の目標	子ども・子育て支援新制度及び新・放課後子ども総合プランへの対応
実施内容	市内8小学校で18学級を開級（定員755名） <input type="checkbox"/> 令和3年4月1日現在752名在籍 1年生253名 2年生199名 3年生168名 4年生88名 5年生34名 6年生10名 待機児童0名（4月1日現在） <input type="checkbox"/> 土曜利用108名（4月1日現在） <input type="checkbox"/> 延長利用294名（4月1日現在） <input type="checkbox"/> 育成料 通常分8,000円 土曜利用1,600円 延長利用3,000円 <input type="checkbox"/> 実施方法 直営4校（精道・朝日ヶ丘・潮見・打出浜） 民間委託4校（宮川・山手・岩園・浜風）
評価	・令和3年度は登録児童数の増加に対応するため精道小学校において、算数教室を活用することにより学級を増設し、全ての児童を受け入れることができた。 ・引き続き、新型コロナウイルス感染症予防策を徹底しながら事業を実施し、放課後児童クラブが担っている児童福祉事業としての役割を果たすことができた。
今後の課題・方向性	・本市の放課後児童クラブは待機児童を出さない方針のため、今後登録児童数が増加した場合に学校によっては学級増設のため、余裕教室や学校外の施設を確保する必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症予防策を徹底し、安定した運営を今後も継続していく。 ・直営学級と委託学級のそれぞれの取り組みを共有することで、更なる保育の質の向上を図っていく。

## 放課後児童健全育成事業（主な事業）

<所管課：青少年育成課>

事業の概要	保護者が就労、疾病その他の理由により、昼間家庭において適切な育成を受けることができない小学校に就学している児童に対し、授業の終了後等に適切な遊び及び生活の場を与えて、家庭、地域等との連携の下、当該児童の自主性、社会性及び創造性の向上、基本的な生活習慣の確立を図り、その健全な育成を図る。
令和3年度の目標	民間事業者の事業開設等への支援により待機児童対策を進める。
実施内容	当該事業の実施に必要な経費を助成。 <input type="checkbox"/> 補助対象事業 3学級（しおさいこども園むすび、スマイル芦屋、ウィルソン・カナディアン・イングリッシュスクール）
評価	山手小学校区内においてスマイル芦屋、精道小学校区内においてウィルソン・カナディアン・イングリッシュスクール、潮見小学校区内においてしおさいこども園むすびの放課後児童健全育成事業に対して、当該事業の実施に必要な経費を助成した。
今後の課題・方向性	引き続き、待機児童が発生する可能性がある地域において、放課後児童健全育成事業を行う団体、事業者等へ補助金を交付する。

1					2			3			4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)

## 子ども若者育成支援対策（主な事業）

<所管課：青少年愛護センター>

事業の概要	社会生活を円滑に営む上で、ひきこもり、ニート、不登校等の困難を有する子ども・若者に対する自立及び社会参加を支援する。
令和3年度の目標	<input type="checkbox"/> 若者相談センター「アサガオ」の周知と事業の充実を図る
実施内容	<input type="checkbox"/> 若者相談センター「アサガオ」の運営 令和3年度の相談者477名、延べ相談件数1,008回。「アサガオ」連続セミナーを、土曜日に開催（年6回）。延べ参加者164名。相談者が集まり、悩みを共有し課題の解決にあたる共感の場「キ・テ・ミ・ル会」を毎月第3土曜日に開催。延べ参加者24名。不登校生の親同士で悩みを共有し支えあう共感の場「親の会」を毎月第1日曜日に開催。延べ参加者109名。 <input type="checkbox"/> 第2期芦屋市子ども・若者計画の推進 <input type="checkbox"/> 進路追跡調査 令和3年3月に市内中学校を卒業し、進学した515名（100校）の年度末時点の現況について、郵送により調査。
評価	若者相談センター「アサガオ」を中心に、セミナーの開催、当事者の語らいの場「キ・テ・ミ・ル会」、「親の会」を開催した。また、相談者の在籍校を訪問したり、場所を変えて面談を行うアウトリーチを実施した。 第2期子ども・若者計画の進行管理表について検討し、改善した。
今後の課題・方向性	若者相談センター「アサガオ」について、訪問支援及びピアサポートの充実を図る。 芦屋市子ども・若者計画の適切な進行管理を行うために、各課の自己評価の妥当性及び成果の検証を行う。 不登校・引きこもりの実態把握の一環として進路追跡調査を継続して行う。

## 青少年愛護センター運営（主な事業）

<所管課：青少年愛護センター>

事業の概要	<input type="checkbox"/> 街頭巡視活動 <input type="checkbox"/> 有害環境対策 <input type="checkbox"/> 青少年愛護センター相談事業 <input type="checkbox"/> 青色回転灯付防犯パトロール車による下校時の安全見守りのうち、月曜、金曜の山手中学校区について担当
令和3年度の目標	<input type="checkbox"/> 子どもたちを見守り、健全育成に努める。保護者、学校園、地域および行政の連携を図る <input type="checkbox"/> 有害図書回収、書店・レンタルビデオ店等を随時訪問し、指導する <input type="checkbox"/> 子どもたちを取り巻く様々な危険について啓発を行い、情報提供する <input type="checkbox"/> 青少年を取り巻く問題全般について、電話および来所等による相談依頼に応じる <input type="checkbox"/> 青色回転灯付防犯パトロール車による下校時の安全見守り（月曜日・金曜日）を行う
実施内容	<input type="checkbox"/> 街頭巡視活動 青少年育成愛護委員による街頭巡視活動。実施回数464回。延べ参加人数2,877名。 <input type="checkbox"/> 有害環境対策 白ポスト（有害図書等の回収）2,931点、コンビニ等環境調査35店舗。 <input type="checkbox"/> 青少年愛護センター事業 青少年問題に関する相談7件。啓発活動として、『愛護班通信』、『愛のまなざし』、『愛のまなざし 特別号』等を発行。芦屋市中学校区青少年健全育成推進会議（役員会）を三中学校区で開催。各校イベントは、感染症予防のため一中学校区のみオンライン形式で開催。兵庫県及び阪神地区の補導委員連絡協議会等に参加。 <input type="checkbox"/> 青色回転灯付防犯パトロール車による下校時の安全見守り 月曜日・金曜日について、下校予定時刻に合わせて随時実施。

1					2			3			4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)

評価	コロナ禍で感染拡大防止対策に留意したため、街頭巡視活動は制限された。
今後の課題・方向性	コロナ禍における活動について、今後も感染拡大防止対策に留意した行動が必要になる。活動が限定的にならざるを得ない状況においても、青少年育成愛護委員の安全を確保した上で、築き上げてきた活動体制を守るため、青少年育成愛護委員の活動をバックアップする。

### 青少年健全育成及び青少年団体育成事業（その他事業）

<所管課：青少年育成課>

事業の概要	次世代を担う青少年の健全育成と青少年団体やこども会活動の支援を行う。
令和3年度の目標	青少年育成事業の活性化 子ども会活動の促進
実施内容	<input type="checkbox"/> 子ども会連絡協議会の活動（55フェスタ・夏のキャンプ・秋祭りこどもみこし・オセロ大会等は中止、春のバス旅行のみ開催。）を支援した。 <input type="checkbox"/> 手作りオモチャ体験事業は中止。 <input type="checkbox"/> 丹波少年自然の家（事務組合）の運営に参加した。 <input type="checkbox"/> ボーイスカウト窓口業務を行った。

### 青少年問題協議会経費（その他事業）

<所管課：青少年愛護センター>

事業の概要	青少年の指導、育成、保護、矯正に関する総合施策の樹立につき、重要事項を調査審議し施策の適切な実施を行うための関係行政機関相互の連絡調整を図る。
令和3年度の目標	<input type="checkbox"/> 青少年問題協議会の運営 <input type="checkbox"/> 第2期芦屋市子ども・若者計画の推進
実施内容	<input type="checkbox"/> 青少年問題協議会の運営 2回実施（7月1日、12月24日）。3月開催分は新型コロナウイルス感染拡大のため中止。 <input type="checkbox"/> 第2期芦屋市子ども・若者計画の検証、推進

1					2			3			4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)

## 重点目標 3 地域社会総がかりの教育施策の推進

### 基本施策 (2) 質の高い教育環境の整備

- 施策の方向性
- 1 安全で快適な魅力ある学習環境の整備
  - 2 就学前施設、小学校、中学校の連携強化
  - 3 開かれた学校園づくりの推進
  - 4 学びの機会を保障するための支援

#### 関連指標

No.	評価指標	単位	基準値 R1	実績 R3	目標値 R7	概要
20	教育ボランティアの活動人数	人/年	600	177	600	外部人材を教育ボランティアとして活用し、特色ある教育活動を行う事業において、学校園が活用した年間の教育ボランティアの延べ人数。

#### 特色ある学校園づくり支援事業（主な事業）

<所管課：学校教育課>

事業の概要	<input type="checkbox"/> 学校評議員制度の推進 <input type="checkbox"/> 学校評価・学習評価の推進 <input type="checkbox"/> 教育ボランティアの派遣（以下事例） (1) 中学校：福祉体験学習の講師招聘、部活動の指導、進路指導、マナー講習講師招聘等 (2) 小学校：食育学習（うどん打ち名人）、修学旅行先での平和学習で語り部を迎える等 (3) 幼稚園：野菜栽培の指導、英語で遊ぼう、紙芝居・手作り絵本読み聞かせ、アドベンチャーワールドとのリモート保育等 <input type="checkbox"/> 各学校の学習指導の充実を図るための研修会や研究会の支援 <input type="checkbox"/> 教育指導補助員（学生ボランティア）の派遣 <input type="checkbox"/> 学校園花いっぱい運動の推進
令和3年度の目標	<input type="checkbox"/> 学校園がそれぞれの教育課題に応じた、特色ある教育活動が展開できるように支援する。 <input type="checkbox"/> 各学校園で学校園評価を実施し、その結果を自校園の教育活動の改善に生かしていく。
実施内容	<input type="checkbox"/> すべての学校園で、教育ボランティアを有効に活用し、特色ある教育活動を行った。 活動人数：延べ177人 <input type="checkbox"/> 各自治会やコミスク、PTA等から学校評議員を委嘱し、学校と地域の課題や連携等について協議した。 <input type="checkbox"/> 学校園花いっぱい運動の推進を図るため、4月に各学校園を訪問し、講師に指導を受ける。写真展示は、5月に行った。
評価	<input type="checkbox"/> 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学校評議員会を中止せざるを得なかった学校園もあったが書面開催により、工夫しながら進めることができた。山手中学校と浜風小学校を令和4年度の学校運営協議会モデル校に選定した。 <input type="checkbox"/> 地域ボランティアと体験活動を行うことで、普段ではなかなか経験できない教育活動の展開や人と人とのつながりも大事にしながら取組を進めることができた。新型コロナウイルス感染症に伴う影響により、各学校園の行事等は規模を縮小したが、感染症対策を講じて実施し、参観された方々からの評価を得ることができた。
今後の課題・方向性	<input type="checkbox"/> 学校運営協議会モデル校の山手中学校と浜風小学校は、熟議に基づく学校評議員会の運営に取り組む。また、各学校園の学校評議員会の活性化を図りながら、モデル校の拡大に努める。 <input type="checkbox"/> 地域ボランティアを活用しながら、幼児児童生徒の教育活動がさらに充実をするよう、各学校園で共有していく必要がある。今後もさらなる特色ある学校園づくりの取組を推進していく。



1					2			3			4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)

## 就学前教育推進事業（主な事業）

<所管課：学校教育課>

事業の概要	<p>「教育のまち 芦屋」のスタートとしての幼稚園教育の充実を目指し、各園での保育研究、環境整備、地域との連携、保護者への啓発等の推進を支援する。</p>
令和3年度の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>□市立幼稚園全園で公開保育研究会を開催し、講師から指導助言を受け、市内の幼稚園教諭・保育教諭・保育士・小学校教諭と共に学ぶ機会とする。</li> <li>□特別支援教育研究会及び実践発表会を実施する。</li> <li>□令和3年度から岩園幼稚園で試験的に実施している3歳児保育について検証・研究を行う。</li> <li>□「芦屋市接続期カリキュラム」を基に、保幼小の合同連絡会を開催する。また、5歳児を対象とし、市内の全小学校において小学校生活の模擬体験をする「小学校ごっこ」を実施する。</li> <li>□市内の就学前施設の5歳児が小学校区ごとに集まり「なかよし運動会」を実施する。また互いの施設に行き来し、交流を深める。</li> <li>□全園にて「3歳児親子ひろば」を継続実施し、在園児との定期的な交流の機会を増やす。</li> <li>□全園において、未就園児交流会、園庭解放、オープンスクールを開催し地域のセンター的な役割を担う。</li> </ul>
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>□市立幼稚園全園で、講師の先生を招いて、各園のテーマに沿って公開保育をし、市内の幼稚園教諭、保育教諭、保育士が共に学ぶ機会となった。また、特別支援教育実践報告及び研究会を3月に実施（参加者32名）、子どもの発達や具体的な支援の仕方について学んだ。</li> <li>□就学前教育研修会では、わらべうたやリトミック等実技講習と、鳴門教育大学附属幼稚園長 佐々木晃氏による幼児の発達についての講話など、幅広い分野の研修会を行った。</li> <li>□岩園幼稚園における3歳児保育については、日を分けて、市立幼稚園教諭、保育教諭、保育士が参観し、意見交流を行った。3月には、岩園幼稚園での1年間の保育について、報告会を行い、43名が参加した。</li> <li>□保幼小合同連絡会は、就学前施設から小学校への質問と小学校からの回答による資料配布と、武庫川女子大学教授 藤谷智子氏の動画配信にて行った。</li> <li>□「なかよし運動会」は新型コロナウイルス感染症の感染状況を鑑みて中止。</li> <li>□3歳児親子ひろばは、年間125回実施し、延べ877組の親子が参加。</li> <li>□全園において、未就園児交流会、園庭開放、オープンスクールを開催し、地域のセンター的な役割を担った。</li> </ul>
評価	<p>各幼稚園が主題に沿って、幼児の学びの芽生えにつながる教師の援助や環境構成について研究を進めた。幼稚園教育要領に示された「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の研究に継続して取り組み、実践したことを「あしやの幼児教育」にまとめ、小中学校や就学前施設に配布し、幼児教育の理解につながった。岩園幼稚園の3歳児保育については、報告会で、3歳児の発達や環境構成について話を聞き、就学前研究会と共に、市内の幼稚園教諭、保育教諭、保育士が共に学ぶ場になることができた。コロナ禍においても、子どもの居場所づくりとして、園庭解放や未就園児の遊びの広場や在園児との交流の充実を図り、地域の子育て世代に対する子育て支援や保護者支援となった。</p>
今後の課題・方向性	<p>「生きる力」の基礎を培う就学前教育について、市立幼稚園全園で各園の研究主題に基づいた公開保育を実施するとともに、就学前施設へ呼びかけ、共に学び合う機会とする。3歳児保育については、3歳児の発達や教育過程、また、4歳児5歳児の育ちや教育課程について、実践と研修会を通して、研鑽を重ねる。また、幼児の実体験からさらに興味関心を広げたり探求心が深まるツールの一つとしてのICTの活用を研究する。他にもICTを使って、保育の可視化を図り、保護者や地域に広く幼稚園教育を知らせる。「接続期カリキュラム」の実践においては、小学校・幼稚園が、公開授業・保育や連絡会等を通して、互いの教育・保育を知り、学びの接続について研究を深めていく。地域の子育てに対する子育て支援では、全市立幼稚園にて未就園児を対象とした園庭解放を年間を通して実施し、未就園児親子の居場所づくりや、未就園児と在園児との交流や子育て相談のさらなる充実を図る。</p>

1					2			3			4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)

## 学校園ICT環境整備事業（主な事業）

<所管課：打出教育文化センター>

事業の概要	<input type="checkbox"/> 学校園教育情報ネットワークシステムの整備 <input type="checkbox"/> 教育用コンピュータの更新と運用保守 <input type="checkbox"/> コンピュータ周辺機器の整備充実	<input type="checkbox"/> 校務用コンピュータの更新、整備充実 <input type="checkbox"/> ICT機器を活用した授業の推進 <input type="checkbox"/> 情報セキュリティの管理運用
令和3年度の目標	<input type="checkbox"/> 情報活用能力体系表をもとに情報モラルの育成やICTを効果的に活用した授業実践を集約し、各学校へ共有していく。 <input type="checkbox"/> 学校園の校務系ネットワークを再構築し、よりセキュリティの高い環境を構築する。 <input type="checkbox"/> 教育情報セキュリティポリシーをもとに作成された実施手順をもとに教職員の情報セキュリティを遵守しようとする意識を高める。	
実施内容	<input type="checkbox"/> 情報活用能力体系表をもとに各校での情報モラル育成のために、冊子を作成し教職員へ周知した。また、著作権についても冊子を作成して教職員へ周知した。 <input type="checkbox"/> 学校園のネットワーク再構築は現場の要望を取り入れながら進めた。 <input type="checkbox"/> 教育情報セキュリティ実施手順を策定し、学校園へ周知した。その実施手順をもとにセキュリティ研修をオンデマンド型で実施した。令和4年1月には教育情報セキュリティアンケートを校務系ネットワークを使用する全教職員対象にして実施した。	
評価	<input type="checkbox"/> 情報モラル・著作権について体系表をもとにした冊子の作成により、教職員が各校でのカリキュラム作成の示唆を得た。 <input type="checkbox"/> 学校園のネットワーク再構築は現場の要望を取り入れながら進め、円滑に移行することができた。 <input type="checkbox"/> 教育情報セキュリティ実施手順を策定し、学校園へ周知し、その実施手順をもとにセキュリティ研修をオンデマンド型で実施したことにより全教職員に対して効果的な研修が実施できた。令和4年1月には教育情報セキュリティアンケートを校務系ネットワークを使用する全教職員対象にして実施して実態把握に努め、さらなるセキュリティの強化を図ることができた。	
今後の課題・方向性	<input type="checkbox"/> 国は、学習用・指導者用端末の更新についてBYOD方式を基本と考えているが、今後も国の動向を注視していく必要がある。 <input type="checkbox"/> 校務支援システムや校務系情報は本庁サーバで運用しているが、クラウド型へ移行することも視野に各市町の運用・更新についての情報収集に努める。 <input type="checkbox"/> 学校教育課と協力して情報活用能力体系表に基づいたICT利活用の授業実践がさらに積み上がるように学校現場を支援していく。 <input type="checkbox"/> 教職員の情報セキュリティや情報モラル教育、著作権への理解の啓発にさらに努める。	

## 企画運営事業（主な事業）

<所管課：学校教育課>

事業の概要	<input type="checkbox"/> 教科等研修会、各種研修会や協議会の開催、講師謝金等事務 <input type="checkbox"/> 芦屋の教育「教育指針」の作成・印刷・配付 <input type="checkbox"/> 事務監査の実施	<input type="checkbox"/> 学校園の公簿等の印刷・配付 <input type="checkbox"/> 教師用教科書及び指導書の整備
令和3年度の目標	<input type="checkbox"/> 第3期芦屋市教育振興基本計画の進捗状況の把握と芦屋の教育指針に沿った具体的な取組の充実 <input type="checkbox"/> 小・中学校の教師用教科書・指導書を整備し、充実した教育活動ができるよう支援する。	
実施内容	<input type="checkbox"/> 第3期芦屋市教育振興基本計画を基に芦屋の教育指針を作成・配布し、学校園の適切な教育活動を支援し指導した。 <input type="checkbox"/> 小・中学校に対して、事務監査を実施 <input type="checkbox"/> 小・中学校の教師用教科書・指導書整備 <input type="checkbox"/> 学校園の教育活動に必要な消耗品の購入・配置 <input type="checkbox"/> 学校運営協議会の実施に向けた準備	

1					2			3			4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)

評価	第3期芦屋市教育振興基本計画・芦屋の教育指針を校長会等を通じ各学校園へ周知の際に、具体的取組につながる理想の共有を図った。全小・中学校に対して、事務監査を実施し、各校の状況を把握することができた。小・中学校の教師用教科書・指導書整備が進み、教育活動を支援できた。学校園の教育活動に必要な消耗品の購入・配置ができた。
今後の課題・方向性	第3期芦屋市教育振興基本計画・芦屋の教育指針の周知徹底の際に、その理念に丁寧にふれることにより、さらに充実した教育活動を展開していく必要がある。 学校運営協議会の実施に向けた協議を今後も継続し、より良い学校づくりを進めていく必要がある。

### 義務教育運営等事務（主な事業）

<所管課：学校教育課>

事業の概要	各学校の教材、消耗備品が充実する中で、教員が様々な教育課題に対して研究、実践を重ね、義務教育の目的を達成する。また、教材整備により児童生徒の教育環境を整え、学習効果の向上を図る。
令和3年度の目標	<input type="checkbox"/> 各学校での教育活動に必要な教材教具、消耗品等への適切な予算執行による教育環境の充実 <input type="checkbox"/> 教科等の研究推進に係る研究会、研修会の充実及び指導助言、支援の充実
実施内容	<input type="checkbox"/> 新型コロナウイルス感染症対策を講じるための教材教具も含め、小・中学校への教育活動に必要な教材環境整備、充実を図った。 <input type="checkbox"/> 小・中学校の各校における教育課題の解決に向けて、新型コロナウイルス感染症対策を講じながら校内研究会や研修会を実施できるよう、支援した。
評価	小・中学校への教育活動に必要な教材環境整備、充実を進めることができた。 各小・中学校における教育課題の解決に向けて、必要な校内研究会や研修会を実施できるよう、支援することができた。オンラインを利用した研修等、新型コロナウイルス感染症対策を講じながらの実施を定着させることができた。
今後の課題・方向性	教育活動に必要な教材環境整備を今後も継続して進めていく必要がある。 各小・中学校における教育課題を市内で共有しながら、各校での校内研究会や研修会に活かし、さらに充実させて行く必要がある。

### 小学校維持管理（その他事業）

<所管課：管理課>

事業の概要	小学校の円滑な運営のための事務を遂行する。また校舎やその他の施設及び設備の管理を行い、児童が良好な環境のもとで学校教育を受けられるようにする。
令和3年度の目標	児童が良好な環境のもとで学校教育を受けられるよう保つ。
実施内容	小学校の維持管理経費 <input type="checkbox"/> 光熱水費 電気使用料 40,625千円 ガス使用料 29,882千円 上下水道使用料 31,745千円 <input type="checkbox"/> その他 20,524千円

1					2			3			4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)

### 中学校維持管理（その他事業）

<所管課：管理課>

事業の概要	中学校の円滑な運営のための事務を遂行する。また校舎やその他の施設及び設備の管理を行い、生徒が良好な環境のもとで学校教育を受けられるようにする。
令和3年度の目標	生徒が良好な環境のもとで学校教育を受けられるよう保つ。
実施内容	中学校の維持管理経費 <input type="checkbox"/> 光熱水費 電気使用料 15,981千円 ガス使用料 12,155千円 上下水道使用料 13,605千円 <input type="checkbox"/> その他 13,018千円

### 幼稚園維持管理（その他事業）

<所管課：管理課>

事業の概要	幼稚園の円滑な運営のための事務を遂行する。また園舎やその他の施設及び設備の管理を行い、園児が良好な環境のもとで幼稚園教育を受けられるようにする。
令和3年度の目標	園児が良好な環境のもとで幼稚園教育を受けられるよう保つ。
実施内容	幼稚園の維持管理経費 <input type="checkbox"/> 光熱水費 電気使用料 5,703千円 ガス使用料 84千円 上下水道使用料 1,112千円 <input type="checkbox"/> その他 8,750千円

### 小学校施設整備事業（その他事業）

<所管課：建築課>

事業の概要	各小学校の損耗や機能低下した施設・設備の改良改修を行い、教育環境の改善を図り、利用者に使いやすい施設に改善するため、各施設の施設整備を行う。
令和3年度の目標	小学校施設・設備の改良改修を行い教育環境の改善を図り、安全かつ使いやすい施設に改善する。
実施内容	宮川小学校トイレ改修工事や山手小学校空調設備改修工事など施設・設備の改良改修工事を行った。

### 中学校施設整備事業（その他事業）

<所管課：建築課>

事業の概要	各中学校の損耗や機能低下した施設・設備の改良改修を行い、教育環境の改善を図り、利用者に使いやすい施設に改善するため、各施設の施設整備を行う。
令和3年度の目標	中学校施設・設備の改良改修を行い教育環境の改善を図り、安全かつ使いやすい施設に改善する。
実施内容	令和元年7月に着手した精道中学校建替工事について、令和4年7月の体育館棟供用開始及び令和4年10月の竣工に向け、Ⅱ期工事（体育館棟の建設）の施工を遅滞なく進めたほか、老朽化した施設・設備の改良改修工事を行った。

1					2			3			4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)

### 幼稚園施設整備事業（その他事業）

<所管課：建築課>

事業の概要	各幼稚園の損耗や機能低下した施設・設備の改良改修を行い、教育環境の改善を図り、利用者に使いやすい施設に改善するため、各施設の施設整備を行う。
令和3年度の目標	幼稚園施設・設備の改良改修を行い教育環境の改善を図り、安全かつ使いやすい施設に改善する。
実施内容	小槌幼稚園保育室床改修工事など施設・設備の改良改修を行った。

### 小学校施設維持管理業務（その他事業）

<所管課：建築課>

事業の概要	<input type="checkbox"/> 巡回警備委託 <input type="checkbox"/> 機械警備委託 <input type="checkbox"/> 保守点検業務：消防設備・自家用電気工作物・冷暖房設備・ガス空調設備・エレベーター等の保守点検業務委託・空気調整機フィルター取替業務委託・樹木剪定等業務委託 <input type="checkbox"/> 施設・設備の補修工事
令和3年度の目標	施設の適正な維持管理を図る。
実施内容	長期継続契約を既に締結している自家用電気工作物・冷暖房設備の保守点検業務委託を実施し、施設の巡回警備及び夜間の機械警備のほか、設備の保守点検業務委託や施設・設備の補修工事については、包括管理業務委託にて実施した。

### 中学校施設維持管理業務（その他事業）

<所管課：建築課>

事業の概要	<input type="checkbox"/> 巡回警備委託 <input type="checkbox"/> 機械警備委託 <input type="checkbox"/> 保守点検業務：消防設備・自家用電気工作物・冷暖房設備・ガス空調設備・エレベーター等の保守点検業務委託・樹木剪定等業務委託 <input type="checkbox"/> 施設・設備の補修工事
令和3年度の目標	施設の適正な維持管理を図る。
実施内容	長期継続契約を既に締結している自家用電気工作物・冷暖房設備の保守点検業務委託を実施し、施設の巡回警備及び夜間の機械警備のほか、設備の保守点検業務委託や施設・設備の補修工事については、包括管理業務委託にて実施した。

### 幼稚園施設維持管理業務（その他事業）

<所管課：建築課>

事業の概要	<input type="checkbox"/> 機械警備委託 <input type="checkbox"/> 保守点検業務：消防設備・自家用電気工作物・冷暖房設備・防災用貯水槽清掃（小槌、西山）等の保守点検業務委託・樹木剪定等業務委託 <input type="checkbox"/> 施設・設備の補修工事
令和3年度の目標	施設の適正な維持管理を図る。
実施内容	長期継続契約を既に締結している自家用電気工作物・冷暖房設備の保守点検業務委託を実施し、施設の夜間の機械警備のほか、設備の保守点検業務委託や施設・設備の補修工事については、包括管理業務委託にて実施した。

1					2			3			4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)

### 私立学校園助成費（その他事業）

<所管課：管理課>

事業の概要	私立幼稚園の施設整備、設備の充実、教材購入、教職員の研修等に要する経費に充てるため助成金を交付する。また、特別支援教育の充実を図るため、私立幼稚園特別支援教育振興助成金を交付する。
令和3年度の目標	市内の私立幼稚園の教育振興と充実を図る。
実施内容	交付実績 600千円（均等割600千円×1園）

### 就学援助費（その他事業）

<所管課：管理課>

事業の概要	市立小中学校に在学している児童生徒のうち、要保護世帯及び準要保護世帯の保護者を対象に就学援助費を給付する。
令和3年度の目標	就学困難な児童生徒の保護者に就学援助費を給付する。
実施内容	<input type="checkbox"/> 認定者及び支給金額 ・小学校認定者数 520人 15,790千円 ・中学校認定者数 317人 14,440千円

### 芦屋市奨学金（その他事業）

<所管課：管理課>

事業の概要	経済的理由により修学困難な者に対し修学に必要な奨学金を給付する。
令和3年度の目標	経済的に修学困難な高校生に奨学金を給付する。
実施内容	<input type="checkbox"/> 支給人数及び支給金額 ・公立高校 33人 1,885千円 ・私立高校 46人 3,724千円 計 79人 5,609千円

### 在日外国人学校就学補助金（その他事業）

<所管課：管理課>

事業の概要	外国人学校の初級部及び中級部に在学する外国人児童生徒の保護者に対して、就学援助費の学用品費等に準じた補助金を給付する。
令和3年度の目標	外国人学校に在籍する外国人児童生徒の保護者に補助金を給付する。
実施内容	従来は対象を朝鮮人学校のみとしていたが、平成29年度より対象を外国人に広げた。 <input type="checkbox"/> 支給人数及び支給金額 ・初級部 5人 164千円 ・中級部 5人 365千円 計 10人 529千円

1					2			3			4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)

## 大学等入学支援基金事業（その他事業）

<所管課：管理課>

事業の概要	「教育を受けられないかたへの応援として使ってほしい」という寄附者のご意向のもと、経済的理由により、大学等への入学が困難なかたに対して入学支度金を支給する（上限20万円）。
令和3年度の目標	経済的な理由により大学等へ入学が困難な者に入学支度金を支給する。
実施内容	<input type="checkbox"/> 大学等入学支援基金積立金 3,171千円 <input type="checkbox"/> 大学等入学支度金 ・申請者数 3件（内訳）認定・給付 3件 ・給付実績 120千円 ・大学等の内訳 大学 3件

## 遠距離通学費助成（その他事業）

<所管課：管理課>

事業の概要	市立小中学校までの通学距離が、概ね小学生で4キロメートル、中学生6キロメートル以上ある児童生徒の保護者に対して、通学費の一部（バス定期代の半額）を助成する。
令和3年度の目標	市立小中学校までの通学距離が遠距離である児童生徒の保護者に対し、遠距離通学費を給付する。
実施内容	<input type="checkbox"/> 認定者及び支給金額 ・小学校認定者数 26人 620千円 ・中学校認定者数 3人 128千円 計 29人 748千円

1					2			3			4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)

## 重点目標 3 地域社会総がかりの教育施策の推進

### 基本施策 (3) 教職員の資質・能力の向上

- 施策の方向性
- 1 教職員のキャリアステージに応じた研修の充実
  - 2 教職員が子どもと向き合う時間の確保

#### 関連指標

No.	評価指標	単位	基準値 R1	実績 R3	目標値 R7	概要
21	一般・課題別・ICT研修講座満足度	-	3.6	3.7	3.8	一般・課題別・ICT研修講座満足度（項目ごとに受講者アンケートによる4段階評価）。
22	様々な業務改善を推進する中で、専門性の向上に費やす時間やゆとりをもって子どもと接する時間が増えたと感じる教職員の割合	%	50.0	52.8	75.0	教職員対象に実施する学校業務改善アンケート調査において、教職員が様々な業務改善（校務支援システムやICTの有効活用、応答メッセージ、外部人材の有効活用、校内業務改善組織の活性化等）を進める中で、教材研究等専門性の向上に費やす時間やゆとりをもって子どもと接する時間が増えたと回答した割合。

#### 教職員の資質向上事業（主な事業）

<所管課：学校教育課>

事業の概要	教職員の専門性と実践的指導力の向上を目指した研修会を実施し資質向上を図る。
令和3年度の目標	役職・年次に応じた管理職、教務主任等、若手教員（2～5年次）及び初任者研修棟の各種研修会を実施する。
実施内容	<p>新型コロナウイルス感染の影響に伴い、芦屋市校園長等夏季研修会及び芦屋市教頭夏季研修会を中止したが、校長会や校園長会、教頭会において講師を招聘し以下のとおり研修会を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校園長対象</li> <li><input type="checkbox"/>些細な発言や行動にアンテナを（三木一子スクールソーシャルワーカー）<input type="checkbox"/>日本語指導が必要な児童生徒への支援について（清田淳子教授）<input type="checkbox"/>新型コロナウイルス感染症の中における教育活動について（河盛重造 芦屋市教育委員）<input type="checkbox"/>新型コロナウイルス感染症の中における子どもたちの学びについて（上月敏子 芦屋市教育委員）<input type="checkbox"/>教職員の働き方改革について（北口郁子 学校主幹）<input type="checkbox"/>人を大切に、人の可能性を見出す ～3つのこころ～（山本雅史 代表取締役社長）<input type="checkbox"/>医療の視点から見た学校園での支援について（野中路子 兵庫県立こども発達支援センター長）</li> <li>・教頭対象</li> <li><input type="checkbox"/>「コロナ禍における避難所運営について（都市建設部）<input type="checkbox"/>要保護児童対策地域協議会について（子育て推進課子ども家庭総合支援室）</li> </ul> <p>生徒指導担当・不登校担当対象：<input type="checkbox"/>ポジティブ行動支援（庭山和貴 准教授）<input type="checkbox"/>不登校児童生徒への支援のあり方（米山直樹教授）</p>
評価	教育振興基本計画や教育指針に掲げる重点目標を中心に、教職員の資質・能力の向上につなげる内容を工夫し、研修会を実施することができた。 校長会を中心に、様々な担当者会で研修を積み重ねるだけでなく、各校の様子を担当者間でも情報交換し合うこと、市内に広げる取り組みを進めることができた。
今後の課題・方向性	若手教職員だけでなく、経験ある教職員も含め、全教職員が様々な教育課題に対して、学び続けることができる環境を整え続けていく必要がある。 あわせて、ICTも適宜、利活用しながら主体的・対話的で深い学びの実現に向け指導力の向上を図る必要がある。



1					2			3			4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)

## 学校園ICT環境整備事業（主な事業）

＜所管課：打出教育文化センター＞

事業の概要	<input type="checkbox"/> 学校園教育情報ネットワークシステムの整備 <input type="checkbox"/> 教育用コンピュータの更新と運用保守 <input type="checkbox"/> コンピュータ周辺機器の整備充実	<input type="checkbox"/> 校務用コンピュータの更新、整備充実 <input type="checkbox"/> ICT機器を活用した授業の推進 <input type="checkbox"/> 情報セキュリティの管理運用
令和3年度の目標	<input type="checkbox"/> 情報活用能力体系表をもとに情報モラルの育成やICTを効果的に活用した授業実践を集約し、各学校へ共有していく。 <input type="checkbox"/> 学校園の校務系ネットワークを再構築し、よりセキュリティの高い環境を構築する。 <input type="checkbox"/> 教育情報セキュリティポリシーをもとに作成された実施手順をもとに教職員の情報セキュリティを遵守しようとする意識を高める。	
実施内容	<input type="checkbox"/> 情報活用能力体系表をもとに各校での情報モラル育成のために、冊子を作成し教職員へ周知した。また、著作権についても冊子を作成して教職員へ周知した。 <input type="checkbox"/> 学校園のネットワーク再構築は現場の要望を取り入れながら進めた。 <input type="checkbox"/> 教育情報セキュリティ実施手順を策定し、学校園へ周知した。その実施手順をもとにセキュリティ研修をオンデマンド型で実施した。令和4年1月には教育情報セキュリティアンケートを校務系ネットワークを使用する全教職員対象にして実施した。	
評価	<input type="checkbox"/> 情報モラル・著作権について体系表をもとにした冊子の作成により、教職員が各校でのカリキュラム作成の示唆を得た。 <input type="checkbox"/> 学校園のネットワーク再構築は現場の要望を取り入れながら進め、円滑に移行することができた。 <input type="checkbox"/> 教育情報セキュリティ実施手順を策定し、学校園へ周知し、その実施手順をもとにセキュリティ研修をオンデマンド型で実施したことにより全教職員に対して効果的な研修が実施できた。令和4年1月には教育情報セキュリティアンケートを校務系ネットワークを使用する全教職員対象にして実施して実態把握に努め、さらなるセキュリティの強化を図ることができた。	
今後の課題・方向性	<input type="checkbox"/> 国は、学習用・指導者用端末の更新についてBYOD方式を基本と考えているが、今後も国の動向を注視していく必要がある。 <input type="checkbox"/> 校務支援システムや校務系情報は本庁サーバで運用しているが、クラウド型へ移行することも視野に各市町の運用・更新についての情報収集に努める。 <input type="checkbox"/> 学校教育課と協力して情報活用能力体系表に基づいたICT利活用の授業実践がさらに積み上がるように学校現場を支援していく。 <input type="checkbox"/> 教職員の情報セキュリティや情報モラル教育、著作権への理解の啓発にさらに努める。	

## 打出教育文化センター教育研究推進と研修事業（主な事業）

＜所管課：打出教育文化センター＞

事業の概要	<input type="checkbox"/> 社会や時代のニーズにあった一般研修・新規採用教員研修・経験者研修・管理職研修 <input type="checkbox"/> 情報モラル・セキュリティ研修 <input type="checkbox"/> 教育研究部会 <input type="checkbox"/> 教科等研究会 <input type="checkbox"/> 各種研究会参加 <input type="checkbox"/> 打出教育文化センター研修講座の概要や事業報告のための「所報」の作成	
令和3年度の目標	<input type="checkbox"/> 教職員が、子どもたちにとってより効果的で有効な教育実践を行うために、現状の課題に即した実践的な研修を企画立案し、「教師力」の向上を図るよう支援する。 <input type="checkbox"/> 学校における指導力の向上のみならず、社会性・創造性・人間性など教員として教養的資質を高める研修に努める。 <input type="checkbox"/> 子どもたちの情報モラルの育成を目標にした研修を実施する。 <input type="checkbox"/> 研修の種類や形態など必要に応じて、オンライン研修やオンデマンド研修の実施について検討し、研究を進めていく。	
実施内容	<input type="checkbox"/> 小中学校新規採用者教員研修 全4回 延べ43人が参加 <input type="checkbox"/> 一般研修講座 全16回 延べ505人が参加 <input type="checkbox"/> 管理職・主幹教諭研修 全3回 延べ82人が参加 <input type="checkbox"/> 教師力支援事業 全11回 延べ5人が参加 <input type="checkbox"/> 教育研究部会 年間を通じて55人が参加	

1					2			3			4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)

評価	<input type="checkbox"/> 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、夏季研修会等をオンライン配信やオンデマンド配信で実施し、受講者から高い満足度を得ることができた。今後もオンライン等を活用することで、教職員が参加しやすい研修を企画していく。 <input type="checkbox"/> 学校園のニーズを把握したことから、教職員のキャリアステージに応じた研修を企画することで、資質・能力の向上を図っていく。
今後の課題・方向性	<input type="checkbox"/> これからの教員に必要な教養的資質について、明確化し、資質向上における研修を体系化するため、研究を進める。 <input type="checkbox"/> オンライン研修についての方法を確立するために、オンライン会議システムの研究を進める。 <input type="checkbox"/> 教職員から研修に関する意見を集約し、研修計画に反映させるとともに、教員の指導力向上における今日的な課題を踏まえた研修について、研修体系表を充実したものとしていく。

### 職員の執務環境及び健康管理関係事業（主な事業）

<所管課：教職員課>

事業の概要	<input type="checkbox"/> 産業医の委嘱 <input type="checkbox"/> 健康診断・健康相談の実施 <input type="checkbox"/> 研修の実施 <input type="checkbox"/> 職員安全衛生委員会の開催、労働安全対策の実施 <input type="checkbox"/> 市立学校教職員安全衛生協議会の開催、労働安全対策の実施 <input type="checkbox"/> 職員に対する被服の貸与
令和3年度の目標	教職員等の業務改善、教職員等の健康管理に対する意識啓発を行う。
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員等への健康診断・ストレスチェックの実施</li> <li>・職員安全衛生委員会の開催 10回</li> <li>・職員に対する貸与被服 1,386,990円</li> <li>・教職員の勤務時間適正化について、広報あしや、ホームページ等を活用し、市民、保護者へ周知した。</li> </ul>
評価	<p>教職員等の健康管理のため、健康診断を実施し、健康診断の結果をもとに、産業医の意見を踏まえ、再度受診が必要な職員に対して受診勧奨を行った。また、早期からのメンタルヘルス不調の未然防止に取り組むため、教職員等へストレスチェックを実施し、自身の心と体の状態の把握と心の健康づくりを支援した。</p> <p>職員労働安全衛生委員会では、健康障害等を防止するための措置状況について、小学校の給食室と市民センターを職場点検した結果、概ね良好であったが、改善することが望ましい部分もあったため、可能な範囲で必要な措置の検討を提案した。</p>
今後の課題・方向性	<p>ストレスチェックの回答率が低い職場があるため、回答率を向上させていくことが課題である。回答率向上のため、ストレスチェックの周知にさらに取り組むことやメンタルヘルス不調の未然防止について丁寧な説明を行っていく必要がある。また、近年、公務災害・労働者災害の発生が続いており、職員労働安全衛生委員会において、災害防止について議論を進めていく必要がある。</p>

1					2			3			4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)

### 打出教育文化センター一般事業（主な事業）

<所管課：打出教育文化センター>

事業の概要	<input type="checkbox"/> 教育研修所連盟への参加 ・県、阪神各教育研修所連盟が主催する研究部会に参加し、今後の研修に生かす。 <input type="checkbox"/> ICT教育関連相談 ・芦屋市在住の市民や保護者の幼児児童生徒に関する情報教育の相談に対して、情報教育担当指導主事が相談を受け、解決の方向を見出す。
令和3年度の目標	<input type="checkbox"/> 県内や阪神間の研究所との連携により研修の充実を図る。 <input type="checkbox"/> 情報教育相談業務において、学校をはじめとする関係機関とのさらなる連携強化に努める。
実施内容	<input type="checkbox"/> 教育研究所との連携 県、阪神の各研修所連盟が主催する研修会に参加、及び実践発表を行い、相互交流することで、今後の研修や研究に生かす。 <input type="checkbox"/> 情報教育相談業務 センター所員による相談を実施。
評価	<input type="checkbox"/> 各研究所からの情報を活かし、今後の研修を設定する際の指針とすることができた。 <input type="checkbox"/> 各方面からの情報教育に関する相談にに対し、課題の発見・早期解決に努めることができた。
今後の課題・方向性	<input type="checkbox"/> 当センター内での情報共有・利用に留めず、関係機関と連携した研修や各学校への情報提供をよりスムーズに行うことで、研修の充実に努める。 <input type="checkbox"/> 当センター内だけでは解決できない問題に遭遇した場合、ヘルプデスクや関係課と連携することで早期対応に努めていく。

### 職員の採用、任免、異動、研修、表彰、服務関係事業（その他事業）

<所管課：教職員課>

事業の概要	<input type="checkbox"/> 必要に応じて職員採用試験の実施 <input type="checkbox"/> 採用、昇任、配置換、出向、休職等の実施 <input type="checkbox"/> 時間外勤務の確認、職務専念義務の免除、休暇の承認 <input type="checkbox"/> 早期退職者の募集、退職手当支給処理、年金受給に関する処理 <input type="checkbox"/> 永年勤続者・退職者で勤務成績が良好な者を表彰
令和3年度の目標	公務効率向上の観点から有益な人材の確保・活用を図るための採用・任免・異動・研修等の実施
実施内容	公務効率向上の観点から有益な人材の確保・活用を図るための採用・任免・異動・研修等を実施した。 ・任免数：採用6人、退職9人、出向6人、転任6人、配置換28人、昇任3人、休職4人

### 人事関係内部管理業務（その他事業）

<所管課：教職員課>

事業の概要	<input type="checkbox"/> 条例・規則・要綱の改正等 <input type="checkbox"/> 予算作成・執行管理・決算及び関係資料の作成 <input type="checkbox"/> 身分証明書の発行 <input type="checkbox"/> 職員団体等との交渉 <input type="checkbox"/> 公平委員会・訴訟関係事務
令和3年度の目標	人事関係内部管理業務の適正な執行
実施内容	・職員団体等との協議・交渉等 ・組織改正に伴う教育委員会事務局事務分掌規則等の改正 ・非正規雇用職員の処遇改善

1					2			3			4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)

### 正規職員の例月給与・一時金・退職金等の業務（その他事業）

<所管課：教職員課>

事業の概要	<input type="checkbox"/> 正規職員の給与・手当の計算・支払 <input type="checkbox"/> 学校厚生会・共済組合費の計算・支払 <input type="checkbox"/> 正規職員の旅費の計算 <input type="checkbox"/> 学校厚生会・共済組合への各種手続
令和3年度の目標	正規職員の給与等の支給に関する業務の適正な執行
実施内容	正規職員の給与等の支給に関する業務を適正に執行した。

### 公務災害・通勤災害（その他事業）

<所管課：教職員課>

事業の概要	<input type="checkbox"/> 地方公務員災害補償基金又は労働基準監督署に対して申請する。 <input type="checkbox"/> 前記の対象者以外は災害の認定、補償を実施する。
令和3年度の目標	公務災害等に関する業務の迅速かつ適正な処理
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 正規職員（再任用職員を含む。）：公務災害 申請13件 認定11件</li> <li>・ 非正規職員：労働者災害 申請10件 認定10件</li> </ul>

### 会計年度任用職員関係経常業務（その他事業）

<所管課：教職員課>

事業の概要	<input type="checkbox"/> 会計年度任用職員の任免 <input type="checkbox"/> 会計年度任用職員の報酬の計算・支払 <input type="checkbox"/> 会計年度任用職員の社会保険・労働保険手続き <input type="checkbox"/> 会計年度任用職員の社会保険料の計算・支払 <input type="checkbox"/> 会計年度任用職員の費用弁償の計算・支払 <input type="checkbox"/> 校務業務の委託料の契約・計算・支払
令和3年度の目標	会計年度任用職員関係経常業務の適切な事務執行
実施内容	組織の業務を円滑に行うため、会計年度任用職員を配置 配置人数 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 会計年度任用職員（2級） 80人</li> <li>・ 会計年度任用職員（1級） 204人</li> </ul>

1					2			3			4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)

## 県費負担教職員の服務等の経常業務（その他事業）

<所管課：教職員課>

事業の概要	<input type="checkbox"/> 採用・異動・退職等任免に関する内申を行う。 <input type="checkbox"/> 昇任・昇格・特別昇格に関する内申を行う。 <input type="checkbox"/> 懲戒処分に関する内申を行う。 <input type="checkbox"/> 教育職員として特に成績優秀であった者の永年勤続表彰及び叙位・叙勲申請を行う。
令和3年度の目標	良好な教育環境を醸成するための教職員の組織力の向上、中堅教職員の学校運営に関する資質の向上、校務の効率化による教職員の時間外勤務の縮減及び児童生徒と向き合う時間の確保、将来性のある若手教職員の育成
実施内容	年度末異動数（小＝小学校、中＝中学校） ・完全退職（小12人、中2人）・市教委等へ異動（小4人、中0人）・転任（小2人、中2人） ・配置換（小13人、中8人）・昇任（小7人、中4人）・新規採用（小10人、中5人） ・市教委等からの異動（小1人、中1人、その他1人） ミドルリーダーの育成及び若手の指導主事への登用 学校業務改善推進会議の開催

## 打出教育文化センター一般事務（その他事業）

<所管課：打出教育文化センター>

事業の概要	<input type="checkbox"/> 教育研究推進と研修事業に係る書類・資料の作成を行う。 <input type="checkbox"/> 迅速、かつ丁寧な窓口の対応、事務補助等のための会計年度任用職員をおく。 <input type="checkbox"/> 学校支援相談員（会計年度任用職員）の配置。
令和3年度の目標	<input type="checkbox"/> 学校支援員相談員が、小中学校の若手教員へ指導・支援を行い、教員の資質・能力の向上を図る。 <input type="checkbox"/> 学校の諸問題を学校支援相談員と管理職が相談し、よりよい方向に導く。
実施内容	<input type="checkbox"/> 学校支援相談員 3名 小中学校の臨時的任用教員等への授業視察による事後指導。 小中学校で発生した保護者対応等の問題解決に向けた管理職との相談と助言。 <input type="checkbox"/> 会計年度任用職員 1名 貸室業務、来客および電話対応、研究支援事務、一般事務等

1					2			3			4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)

## 重点目標 4 人生100年を通じた学びの推進

### 基本施策 (1) 生涯学習の推進

- 施策の方向性
- 1 生涯学習の機会の充実
  - 2 指導者の養成・育成
  - 3 学習情報の収集・提供

#### 関連指標

No.	評価指標	単位	基準値 R1	実績 R3	目標値 R7	概要
23	中学生以下の美術博物館入館者数	人/年	1,742	2,825	2,000	中学生以下の美術博物館への延べ入館者数。
24	あしや学びあいセミナー（市民版出前講座）に登録する団体数	-	33	23	40	あしや学びあいセミナー（市民版出前講座）に登録する団体数。
25	文化財の整理作業補助等に関わる「文化財ボランティア」の活動者数	人/年	14	8	15	文化財の整理作業の補助やトライやる・ウィークの生徒に対する指導協力、展示や企画などを行う「文化財ボランティア」の年間実活動者数。
26	公民館講座等の受講率	%	81.4	97.5	85.0	公民館講座等の受講率。

### 美術博物館管理運営事業（主な事業）

<所管課：生涯学習課>

事業の概要	<input type="checkbox"/> 優れた美術作品や文化財を鑑賞できるように、作品・資料の収集・調査・研究・展示等を行う。 <input type="checkbox"/> 安全快適に観覧できるように、施設・設備を良好に維持管理する。 <input type="checkbox"/> 収蔵品を適切に保存・管理する。
令和3年度の目標	<input type="checkbox"/> 谷崎潤一郎記念館との一括管理による事業の効率化 <input type="checkbox"/> 改修工事の準備 <input type="checkbox"/> 収蔵資料（歴史資料等）の台帳整備 <input type="checkbox"/> 文化ゾーンの連携と活性化
実施内容	<input type="checkbox"/> 指定管理料 76,640千円 <input type="checkbox"/> 入館者数 19,811人（有料入館者 4,329人、無料入館者 15,482人） ・展覧会観覧者数 13,853人 ・展覧会関連事業参加者数 1,291人 ・講演会・講座等参加者数 502人 ・ワークショップ参加者数 165人 ・その他事業参加者数 1,434人 ・中学生以下の入館者数 2,825人 <input type="checkbox"/> 改修工事实施設設計業務委託 16,761千円 <input type="checkbox"/> 美術博物館協議会の開催 2回 <input type="checkbox"/> 美術品収集委員会の開催 1回 <input type="checkbox"/> 文化ゾーン連携事業の実施（「niwa-doku」1回、「芦屋市文化ゾーン講座」4回、「つくるば」中止）
評価	<p>緊急事態宣言のため4/25-5/11臨時休館となったが、年間を通じてほぼ予定通り実施できた。中学生以下の美術博物館入館者数は、造形教育展が開催されたことにより、2,825人が来館され、目標値の2,000人を達成した。また、芦屋市文化ゾーンの活性化として、当館と谷崎潤一郎記念館・図書館が連携し、イベント「niwa-doku」を実施した。また、「芦屋市文化ゾーン講座」も予定通り実施。入館者数は年間累計で、19,811名となり、前年度より2,500名増加した。</p>
今後の課題・方向性	<p>新型コロナウイルス感染症拡大防止を前提にした新たな事業展開を模索しつつ、引き続き入館者数の増加を目指した新たな切り口での展覧会やイベントの実施、文化ゾーン連携事業を展開し、文化ゾーン全体での活性化を目指す。</p> <p>令和4年度に施設の保全・長寿命化のため休館を伴う機械設備等改修工事を実施し、令和5年4月に再開館する予定である。休館にあわせて、歴史資料展示室における展示内容の充実を図る。</p>

1					2			3			4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)

## 生涯学習推進事業（主な事業）

<所管課：生涯学習課>

事業の概要	<input type="checkbox"/> 地域の課題解決を図るための活動や地域づくりの推進のため、様々な学習活動の機会を充実させ支援を行う。 <input type="checkbox"/> 生涯学習の推進 <input type="checkbox"/> 社会教育関係団体の支援 <input type="checkbox"/> 社会教育委員の会議の設置
令和3年度の目標	<input type="checkbox"/> あしや学びあいセミナー及び社会教育関係団体公募提案型補助金のPRを行うとともに、実績件数を増やす。
実施内容	<input type="checkbox"/> 生涯学習出前講座（75講座）16回 <input type="checkbox"/> 社会教育委員の会議の開催 3回 <input type="checkbox"/> 社会教育関係団体登録数 220団体 <input type="checkbox"/> 社会教育関係団体公募提案型補助金交付決定額 100千円（2団体） <input type="checkbox"/> あしや学びあいセミナー登録団体 23団体 実施回数 1回 <input type="checkbox"/> 市内在住の小中学生に対し、のびのびパスポートの配布 8,000枚
評価	生涯学習出前講座については、講座回数が新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、以前よりは減少しているが、昨年度より9回増加した。 社会教育関係団体の3年毎の一斉登録更新を行うとともに、社会教育関係団体による社会教育活動の活性化の推進に向けて取り組んだ。 「のびのびパスポート」の配布を通して、子どもたちの健全育成と教育環境の充実を図った。
今後の課題・方向性	継続して出前講座を実施するとともに、公募提案型補助金とあしや学びあいセミナーを実施し、社会教育活動を活発にするための支援を行う。 のびのびパスポートを配布することにより教育関連施設の利用を活性化するとともに、子どもたちの近隣地域社会への興味関心を高める。

## 谷崎潤一郎記念館管理運営事業（主な事業）

<所管課：生涯学習課>

事業の概要	<input type="checkbox"/> 谷崎文学を知ることができ、文豪谷崎潤一郎の業績を顕彰できるよう、資料の収集・調査・研究・展示等を行う。 <input type="checkbox"/> 安全快適に観覧できるように、施設・設備を良好に維持管理する。 <input type="checkbox"/> 収蔵品を適切に保存・管理する。
令和3年度の目標	<input type="checkbox"/> 美術博物館との一括管理による事業の効率化 <input type="checkbox"/> 改修工事の準備 <input type="checkbox"/> 文化ゾーンの連携と活性化
実施内容	<input type="checkbox"/> 指定管理料 19,160千円 <input type="checkbox"/> 入館者数 9,176人 ・展示会回数 4回 ・ロビーギャラリー開催数 8回 ・ロビーギャラリートーク参加者数 5人 ・文学館講座受講者数（延べ） 1,522人 ・1日講座参加者数 202人 ・特別イベント参加者数 1,522人 <input type="checkbox"/> 改修工事実施設計業務委託 6,340千円 <input type="checkbox"/> 文化ゾーン連携事業の実施（「niwa-doku」1回、「芦屋市文化ゾーン講座」4回、「つくるば」中止）
評価	緊急事態宣言のため4/25-5/11臨時休館となったが、年間を通じてほぼ予定通り実施できた。芦屋市文化ゾーンの活性化として、当館と美術博物館・図書館が連携し、イベント「niwa-doku」を実施した。また、「芦屋市文化ゾーン講座」も予定通り実施。入館者数は年間累計で、9,176名となり、前年度より1,389名増加した。
今後の課題・方向性	新型コロナウイルス感染症拡大防止を前提にした新たな事業展開を模索しつつ、若年層の入館者増加に向け、引き続き展覧会などで工夫をしていく必要がある。また、引き続き文化ゾーンや富田碎花旧居などとも連携した事業展開を検討する必要がある。 令和4年度に施設の保全・長寿命化のため休館を伴う機械設備等改修工事を実施し、令和5年4月に再開館する予定である。休館にあわせて、谷崎文学により親しんでいただく仕掛けづくりに取り組む。

1					2			3			4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)

## 文化財保護及び活用事業（主な事業）

<所管課：生涯学習課>

事業の概要	<input type="checkbox"/> 市内の歴史や文化財の価値を知り、将来へ継承できるよう、文化財を指定・登録する。 <input type="checkbox"/> 市内の文化財を保存・活用し、正しい理解を広め、後世へ継承する。 <input type="checkbox"/> 芦屋の歴史を正しく知ることができるよう、開発によって破壊される埋蔵文化財を事前に発掘調査し、その結果を公表する。 <input type="checkbox"/> 市内の文化財の学術的価値について審議及び建議を行う。
令和3年度の目標	<input type="checkbox"/> 徳川大坂城東六甲採石場400年記念事業の実施（講演会、講座、ワークショップ、見学会、パンフレットの刊行） <input type="checkbox"/> 芦屋の歴史遺産未来継承事業（出土金属器の保存処理、絵図・古写真等のデジタル化）
実施内容	<input type="checkbox"/> 徳川大坂城東六甲採石場400年記念事業の実施（オンライン講演会：視聴回数2,946回、オンライン講座：視聴回数337回、ワークショップ：参加者6名、現地見学会：参加者12名、パンフレットの刊行） <input type="checkbox"/> 芦屋の歴史遺産未来継承事業（山芦屋古墳出土金属器の保存処理、絵図・古写真のデジタル化、古写真のカラー化） <input type="checkbox"/> 埋蔵文化財発掘調査の実施（本発掘調査：1件、確認調査：10件） <input type="checkbox"/> 埋蔵文化財発掘調査報告書の刊行：1冊 <input type="checkbox"/> 出土品の整理作業 <input type="checkbox"/> 市指定文化財の指定：1件（阿保天神社カ石） <input type="checkbox"/> 文化財保護審議会の開催：1回（オンライン） <input type="checkbox"/> 遺跡の環境整備の実施（草刈り：会下山遺跡：2回〔内、1回は芦屋ライオンズクラブの奉仕活動〕、朝日ヶ丘遺跡：2回、金津山古墳：2回。枯木伐採：金津山古墳：2回） <input type="checkbox"/> 金津山古墳樹木調査の実施 <input type="checkbox"/> 文化財ボランティアの養成（登録人数8名） <input type="checkbox"/> 三条文化財整理事務所の展示室の開館（来館者数148名、体験学習室は新型コロナウイルス感染拡大防止のため休館） <input type="checkbox"/> 阪神間日本遺産活用推進事業の実施
評価	新型コロナウイルス感染症拡大防止を踏まえた上で、市内の文化財の価値や情報を発信する新たな情報を模索し、実施した。特に、徳川大坂城東六甲採石場400年記念事業のオンライン講演会については、芦屋市民だけでなく、全国的に芦屋の文化財の情報を発信することができた。
今後の課題・方向性	国指定史跡会下山遺跡については、将来にわたり適切に保存・活用するために史跡保存活用計画を作成する必要がある。 市内の歴史文化遺産を総合的に保存・活用するために、今後、文化財保存活用地域計画を策定する必要がある。 市民と協働して市内の文化財を保護していくために、文化財ボランティアの養成・活動の充実が必要である。

## 市民センター管理運営業務（主な事業）

<所管課：市民センター>

事業の概要	<input type="checkbox"/> 市民センターの施設、設備を良好に維持するとともに、市民のニーズに対応できるよう配置し、来館者（市民）が安全・快適に利用し、もって市民の文化振興に資する。 <input type="checkbox"/> 生涯学習や社会福祉活動の場の提供・市民センター施設の維持管理・市民センター施設の貸出
令和3年度の目標	新型コロナウイルス感染症対策を行い利用制限を実施したが、生涯学習や社会福祉活動の場の提供として活動してもらえるように努める。
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷却水処理ユニット（薬注ポンプ）設置工事を行った。</li> <li>・工事は、スライムや藻類等の発生抑制、レジオネラ属菌の殺菌、配管内の腐食防止等に寄与する機器である。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症対策による人数制限やマスク着用等を行った。</li> </ul>



1					2			3			4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)

評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷却水処理ユニット（薬注ポンプ）設置工事は、衛生上、施設の利用者に安全と安心をしていただけるものである。</li> <li>・感染症対策による制限に対して、一部の団体から反発はあったが、芦屋市の公共施設全体で取り組んでいる事案なので、理解いただけるように指導を行った。</li> </ul>
今後の課題・方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設として、老朽化しているところもあり、利用者への安全を考慮し、施設を点検し、改修を進めていきたいと考えている。</li> <li>・施設を快適に利用いただけるように関係公共施設と連携を取りながら検討し、改善できることは進めていきます。</li> </ul>

## 市民会館文化事業（主な事業）

<所管課：市民センター>

事業の概要	市民文化の振興を図ることを目的として、各種文化団体が1年間の成果を発表するため、又絵画創作活動に親しんでいる方を対象にホールや展示場を利用して、発表及び鑑賞の場として開催
令和3年度の目標	新型コロナウイルス感染における時世で活動を控える方がいるが、発表及び鑑賞の場として対策を行いつつ工夫をしながら開催し、文化振興を図りたい
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市民絵画展は例年、作品に対して最終日に審査委員長からの表彰や寸評があったが、今年度は実施せず、開催した。</li> <li>・市民ギャラリーの発表の場を多目的ホールから展示場に縮小して実施した。</li> <li>・市民ステージについては、感染症対策を施し、例年どおり実施した。</li> </ul>
評価	市民の文化振興と発展を目的とした発表の場として事業を実施してきたが、感染症対策により会場の変更や表彰の場を設けなかったことで参加者が減った。
今後の課題・方向性	新型コロナウイルス感染の状況を注視しながらではあるが、市民の皆さんに活動していただけるように実施していきたい。

## 打出教育文化センター管理運営（その他事業）

<所管課：打出教育文化センター>

事業の概要	<input type="checkbox"/> 適切な電気設備、消防設備、清掃・窓業務、空調設備、自動扉保守点検、池濾過管理等を行う。 <input type="checkbox"/> 貸室の管理・運営（大会議室・小会議室・和室）を行う。 <input type="checkbox"/> AEDの設置 <input type="checkbox"/> センター及び図書館の改修工事について協議を行う。
令和3年度の目標	<input type="checkbox"/> 貸室利用者や研修受講者が利用目的をより達成できるような施設の整備に努める。 <input type="checkbox"/> 打出教育文化センターおよび図書館の大規模改修に向けて各関係機関と協議を行う。
実施内容	<input type="checkbox"/> 施設の適切な運営管理を行い、快適な施設利用ができるようにした。

1					2			3			4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)

### 富田碎花顕彰事業（その他事業）

<所管課：生涯学習課>

事業の概要	<input type="checkbox"/> 市民及び全国の文学の愛好者が富田碎花旧居を安全快適に利用できるように、設備・施設を良好に管理する。 <input type="checkbox"/> 市民及び全国の文学の愛好者が、「兵庫県文化の父」と呼ばれる詩人富田碎花について知ることができるよう富田碎花旧居の展示等を充実する。 <input type="checkbox"/> 富田碎花の多彩な業績を顕彰するために、富田碎花賞を実施する。
令和3年度の目標	<input type="checkbox"/> 富田碎花賞の円滑な実施 <input type="checkbox"/> 富田碎花旧居の入館者数の増加 <input type="checkbox"/> 富田碎花旧居の活用方法の検討
実施内容	<input type="checkbox"/> 富田碎花賞の実施（市主催で行い、選考業務を富田碎花顕彰会に委託） ・受賞作 北爪満喜氏『Bridge』・応募詩集数 92詩集 <input type="checkbox"/> 富田碎花賞贈呈式の開催 ・日時 令和3年11月11日（木）・場所 芦屋市立美術博物館 <input type="checkbox"/> 富田碎花旧居の管理運営（富田碎花顕彰会に委託） ・開館日数 100日（水・日曜日）及び13日（団体見学臨時開館）・入館者数 773人 <input type="checkbox"/> 富田碎花旧居でのイベントの実施 ・阪神地域オープンミュージアム 無料開放DAY 参加者数 124人

### 三条分室及び三条デイサービスセンターの維持管理（その他事業）

<所管課：生涯学習課>

事業の概要	<input type="checkbox"/> 三条分室の管理及び清掃 <input type="checkbox"/> 施設補修 <input type="checkbox"/> 各設備等保守点検（受水槽、受変電設備、施設機械警備設備、消防設備、空調設備等） <input type="checkbox"/> 夜間機械警備
令和3年度の目標	市民及び三条デイサービスセンターの利用者が、安全・快適に三条分室を利用できるよう、施設・設備等の維持管理に努める。
実施内容	<input type="checkbox"/> 施設管理（施設内清掃、ゴミの排出、施設内巡回による安全点検等） <input type="checkbox"/> 設備等の保守及び保安点検業務委託（受水槽、受変電設備、施設機械警備設備、消防設備、空調設備等）

### ルナ・ホール事業（その他事業）

<所管課：市民センター>

事業の概要	音楽コンサート、落語、映画等の芸術鑑賞
令和3年度の目標	新型コロナウイルス感染防止対策を行い、昨年度から延期された市制施行80周年事業及びホール事業を実施する。
実施内容	円滑な事業の実施に努めたが、本市出身のヴァイオリニスト日下氏はドイツ在住であり、新型コロナウイルス感染症防止のため来日を見合わせたため音楽コンサートは実施できなかった。また、「芦屋能・狂言の会」については、長山耕三氏を中心に感染症対策を行い実施した。

1					2			3			4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)

### 講座・セミナー・音楽会等の開催（その他事業）

<所管課：公民館>

事業の概要	生涯学習の推進を図るために講座・セミナー・音楽会等を開催する。
令和3年度の目標	新型コロナウイルス感染防止対策を行い、生涯学習の機会をなくさないように興味深い講座等を開催する。
実施内容	委託事業者の企画提案事業で、公民館では、地域史で初めて扱う中世前期をテーマに「芦屋の荘園・芦屋の合戦」の講座を行ったが、関心が高く応募者が多かった。また、音楽会「音楽史のいざない」においては、ホール事業と連携し、コンサートや展示事業も行いながら講座を開催した。初めての試みとして7月と11月の家庭教育セミナーでオンラインでライブ配信を行った。

### 芦屋川カレッジ・芦屋川カレッジ大学院（その他事業）

<所管課：公民館>

事業の概要	60歳以上の市民を対象に学習の機会を提供し、教養を高め、活発な交流を実現する。芦屋川カレッジ修了生がより高度な教養を身につけ、受講生間の仲間作りに取り組む。
令和3年度の目標	新型コロナウイルス感染によるカレッジ生の応募が定数より少なかったが、生涯学習の機会をなくさないように開催する。
実施内容	新型コロナウイルス感染防止対策を行い、カレッジでは、幅広く学習できる必須コースと日本の和の文化・伝統など学習するコースと世界の文化・歴史・音楽などを学習するコースを選択して学び、仲間づくりと生涯学習の場として実施しました。また、大学院では、「ひょうごの日本遺産めぐり ヘリテージーツーリズムの9つの物語」をテーマとしてカリキュラムを実施した。

### 公民館図書室の運営（その他事業）

<所管課：公民館>

事業の概要	生涯学習並びに教養の向上の支援。
令和3年度の目標	新型コロナウイルス感染症対策に努め、図書館本館と連動し、適切に図書室運営を行う。
実施内容	公民館図書室は、新型コロナウイルス感染症防止対策を行い、生涯学習の場として、図書館本館と連動し、適切に運営を行った。

### 芦屋市立公民館運営審議会等（その他事業）

<所管課：公民館>

事業の概要	公民館運営審議会を開催し、各種の事業の企画実施につき調査・審議を行い、より良い公民館運営に役立てる。
令和3年度の目標	新型コロナウイルス感染防止対策を行い、公民館の在り方を審議し、公民館事業について意見を伺う。
実施内容	今年度の審議会は、新型コロナウイルス感染症対策もあり、書面での開催となったが、公民館事業としての講座や芦屋川カレッジ、にほんごがっきゅう（50回 開催）の運営について、意見をいただいた。

1					2			3			4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)

### 常設展示事業・公民館ギャラリー（その他事業）

<所管課：公民館>

事業の概要	さまざまな学習機会を提供するために常設展示事業・公民館ギャラリーを実施。市民に学習成果の発表の場を提供すると共に文化意識の向上を図る。
令和3年度の目標	新型コロナウイルス感染予防の集団接種会場になっていたため、展示場の活用を調整しながら適切に行う。
実施内容	公民館音楽会の開催時に合わせた展示事業として「竹久夢二のセノオ楽譜展」や「芦屋の古楽、原田宿命展」を行い、公民館セミナーに連動した「坂倉準三と芦屋市民センターの建築展」を行った。

### 阪神南青い鳥・くすの木学級の開催（その他事業）

<所管課：公民館>

事業の概要	<input type="checkbox"/> 阪神南地区3市視覚障がい者の学習機会の提供、交流（青い鳥学級） <input type="checkbox"/> 阪神地区7市1町聴覚言語障がい者の学習機会の提供、交流（くすの木学級）
令和3年度の目標	阪神南青い鳥学級は、芦屋学級となっており、感染症対策を行い、尼崎市と西宮市の会員の方と交流を行う。
実施内容	青い鳥学級（視覚障がい者）は、芦屋市が当番市で、芦屋市社会福祉協議会と連携し、市民センターで尼崎市と西宮市の方々を招き、交流を図った。

1					2			3			4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)

## 重点目標 4 人生100年を通じた学びの推進

### 基本施策 (2) あしやスポーツ文化の推進

- 施策の方向性
- 1 ライフステージに応じたスポーツの推進
  - 2 スポーツ文化の推進
  - 3 学校・地域連携の推進
  - 4 芦屋らしいスポーツの推進

#### 関連指標

No.	評価指標	単位	基準値 R1	実績 R3	目標値 R7	概要
27	スポーツ啓発事業参加者数	人/年	479	627	700	市民スポーツ啓発事業への年間参加者数。 ・少年少女カヌー体験教室 ・ラジオ体操講習会（市民向け・出前講座） ・スポーツクライミング体験会 ・バスケットボールクリニック ・市民ゴルフ大会 ・スポーツ啓発ポスター展 ・ファミリースポーツのつどい ・高齢者向け「貯筋運動」 ・3X3クリニック 合計10事業

#### 生涯スポーツ推進事業（主な事業）

<所管課：スポーツ推進課>

事業の概要	ライフステージに応じたスポーツ推進 ・子ども、成人・高齢者、障がい者、ファミリー、アスリートの実施者を増やす。
令和3年度の目標	子ども・青少年のスポーツ実施者を増やす事業を実施する。 スポーツ文化に係る推進事業を実施する。
実施内容	<input type="checkbox"/> スポーツ推進委員事業 月例定例会議、阪神南・県理事会等、各種事業の運営協力 <input type="checkbox"/> スポーツリーダー事業 スポーツリーダー認定講習会23人参加 <input type="checkbox"/> 市民スポーツ啓発事業 10事業627人参加 <input type="checkbox"/> 障がい者スポーツ事業 しょうがい者とのスポーツ交流広場150人、障がい者スポーツ支援事業104人参加 <input type="checkbox"/> スポーツクラブ21事業 9クラブ総会、市・阪神・全県協議会理事会 <input type="checkbox"/> 体力づくり強調月間事業 10月中 主催事業・協賛事業 835人参加 <input type="checkbox"/> スポーツ文化事業 スポーツ展、ポスター展267人出展 <input type="checkbox"/> 子どもの居場所づくり推進事業「体協チャレンジ2021」会員数296人 <input type="checkbox"/> 競技スポーツ推進事業 市長杯・教育長杯争奪大会443人参加 <input type="checkbox"/> ユナイテッドドリレーマラソン2021 90チーム、562人参加 <input type="checkbox"/> レクリエーションスポーツ協会関係事業 総会・理事会、各種事業運営協力 <input type="checkbox"/> NPO法人体育協会関係事業 指定管理業務、各種スポーツ教室、総合型地域スポーツクラブの運営 <input type="checkbox"/> 市制施行80周年記念事業 パラスポーツ体験会57人参加 <input type="checkbox"/> スポーツ推進審議会 3月（WEB開催） <input type="checkbox"/> 阪神間スポーツ行政担当者連絡協議会 第1回9月（書面開催）、第2回3月 <input type="checkbox"/> スポーツ関係団体補助金 体育協会1,200千円、レクリエーションスポーツ協会350千円

1					2			3			4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)

評価	芦屋市スポーツ推進実施計画（後期）に基づき、市民スポーツ啓発事業を実施した。新型コロナ感染症の影響により、各種スポーツ事業が中止になったが、参加者数は増加した。また、市制施行80周年記念事業として、車椅子バスケットボール等パラスポーツ体験会を実施するとともに、東京オリンピック・パラリンピックの開催に合わせ、スポーツクライミング体験会等を実施した。
今後の課題・方向性	ライフステージに応じたスポーツ推進として、高齢者の健康増進や子どもの体力低下などの課題があるが、学校やスポーツ市民団体と協力し、事業の推進を図っていきます。

### スポーツ振興基金事業（その他事業）

<所管課：スポーツ推進課>

事業の概要	スポーツの推進を目的に競技水準の向上とスポーツの裾野の拡大を図る活動とその活動でスポーツ振興に貢献したアスリートを表彰する事業及びスポーツ施設の整備等を行う事業
令和3年度の目標	スポーツ活動助成及びスポーツ賞表彰事業を引き続き実施する。
実施内容	<input type="checkbox"/> スポーツ活動助成事業 ・国際・国内スポーツ交流事業 1件(1団体) 15,000円 ・各種広域スポーツ大会出場支援事業 28件(209人) 308,500円 <input type="checkbox"/> スポーツ賞表彰 ・実技表彰 全国大会1人、県大会18人

### 芦屋公園庭球場管理運営事業（その他事業）

<所管課：スポーツ推進課>

事業の概要	指定管理者による芦屋公園庭球場の維持管理運営を支援し、庭球場の利用者が、テニス競技をとおして交流を図り、スポーツに親しむことでスポーツの推進を図る。
令和3年度の目標	多くの市民が利用できるように指定管理者と協議して、適切な運営を進めていく。施設の管理運営を適切に行うため指定管理者と連絡・調整を行う。
実施内容	・利用者へのサービスの向上と施設の充実を図るため、指定管理者と月次定例会議を実施。 ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により指定管理者による自主事業の一部が中止となった。 貸コート等利用状況 庭球場 12,819.5区分 稼働率86.2% 会議室 308区分 稼働率16.9%

### 朝日ヶ丘公園水泳プール管理運営事業（その他事業）

<所管課：スポーツ推進課>

事業の概要	指定管理者によるスポーツ施設の維持管理運営を支援し、多くの市民がプールを利用することでスポーツの推進を図る。
令和3年度の目標	多くの市民が利用できるように指定管理者と協議して、適切な運営を進めていく。施設の管理運営を適切に行うため指定管理者と連絡・調整を行う。
実施内容	・利用者へのサービスの向上と施設の充実を図るため、指定管理者と月次定例会議を実施 ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により指定管理者による自主事業の一部が中止となった。 屋外プール利用者数 (R3.7.1~8.31) 13,464人

1					2			3			4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)

### 南芦屋浜地区教育施設用地活用事業（その他事業）

<所管課：スポーツ推進課>

事業の概要	「健康増進施設（スポーツ施設）」、「地域交流に資する施設」を整備し、スポーツを通じたコミュニティづくりの推進
令和3年度の目標	事業者が公募した要件に従い、事業を行っているか確認と指導を行う。
実施内容	南芦屋浜地区教育施設用地（スポーツプラザ潮芦屋）の活用事業者が、施設利用において公募要件に則して行っているか確認し、活用事業者と協議し、連絡を定期的に行う。

### 体育館・青少年センター等の管理運営事業（その他事業）

<所管課：スポーツ推進課>

事業の概要	体育館・青少年センター、川西運動場、中央公園野球場及び芝生公園、東浜、西浜庭球場の利用を促進し、多くの市民がスポーツを親しむことでスポーツの推進を図る。																																										
令和3年度の目標	多くの市民が利用できるように指定管理者と協議して、適切な運営を進めていく。 施設の管理運営を適切に行うため指定管理者と連絡・調整を行う。																																										
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者へのサービスの向上と施設の充実を図るため、指定管理者と月次定例会議を行った。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により指定管理者による自主事業の一部が中止となった。</li> </ul> <table border="0"> <tr> <td>体育館・青少年センター</td> <td>貸室利用状況</td> <td>競技場等</td> <td>13,210件</td> <td>稼働率</td> <td>62.2%</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>トレーニング室</td> <td>20,408人</td> <td></td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>東浜公園庭球場</td> <td>貸コート等利用状況</td> <td></td> <td>2,312件</td> <td>稼働率</td> <td>74.4%</td> </tr> <tr> <td>西浜公園庭球場</td> <td>貸コート等利用状況</td> <td></td> <td>2,506件</td> <td>稼働率</td> <td>81.0%</td> </tr> <tr> <td>川西運動場</td> <td>貸コート等利用状況</td> <td></td> <td>1,172件</td> <td>稼働率</td> <td>57.1%</td> </tr> <tr> <td>芦屋中央公園野球場</td> <td>貸コート等利用状況</td> <td></td> <td>950件</td> <td>稼働率</td> <td>48.0%</td> </tr> <tr> <td>芦屋中央公園芝生広場</td> <td>貸コート等利用状況</td> <td></td> <td>430件</td> <td>稼働率</td> <td>77.2%</td> </tr> </table>	体育館・青少年センター	貸室利用状況	競技場等	13,210件	稼働率	62.2%			トレーニング室	20,408人		—	東浜公園庭球場	貸コート等利用状況		2,312件	稼働率	74.4%	西浜公園庭球場	貸コート等利用状況		2,506件	稼働率	81.0%	川西運動場	貸コート等利用状況		1,172件	稼働率	57.1%	芦屋中央公園野球場	貸コート等利用状況		950件	稼働率	48.0%	芦屋中央公園芝生広場	貸コート等利用状況		430件	稼働率	77.2%
体育館・青少年センター	貸室利用状況	競技場等	13,210件	稼働率	62.2%																																						
		トレーニング室	20,408人		—																																						
東浜公園庭球場	貸コート等利用状況		2,312件	稼働率	74.4%																																						
西浜公園庭球場	貸コート等利用状況		2,506件	稼働率	81.0%																																						
川西運動場	貸コート等利用状況		1,172件	稼働率	57.1%																																						
芦屋中央公園野球場	貸コート等利用状況		950件	稼働率	48.0%																																						
芦屋中央公園芝生広場	貸コート等利用状況		430件	稼働率	77.2%																																						

### 海浜公園水泳プール管理運営事業（その他事業）

<所管課：スポーツ推進課>

事業の概要	指定管理者による海浜公園水泳プール施設の維持管理運営を支援し、多くの市民が年間を通してプールで泳ぐことにより、健康増進を図る。						
令和3年度の目標	多くの市民が利用できるように指定管理者と協議して、適切な運営を進めていく。 施設の管理運営を適切に行うため指定管理者と連絡・調整を行う。						
実施内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者へのサービスの向上と施設の充実を図るため、指定管理者と月次定例会議を行った。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大の影響により指定管理者による自主事業の一部が中止となった。</li> </ul> <table border="0"> <tr> <td>屋外プール利用者数</td> <td>(R3.7.1~8.31)</td> <td>19,196人</td> </tr> <tr> <td>屋内温水プール利用者数</td> <td>(R3.4.1~R4.3.31)</td> <td>46,245人</td> </tr> </table>	屋外プール利用者数	(R3.7.1~8.31)	19,196人	屋内温水プール利用者数	(R3.4.1~R4.3.31)	46,245人
屋外プール利用者数	(R3.7.1~8.31)	19,196人					
屋内温水プール利用者数	(R3.4.1~R4.3.31)	46,245人					

1					2			3			4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)

## 重点目標 5 読書のまちづくりの推進

### 基本施策 (1)ブックワーム芦屋っ子の育成

- 施策の方向性
- 1 子どもの読書習慣の確立
  - 2 学校図書館の利用促進
  - 3 公立図書館と連携した教育活動の推進

#### 関連指標

No.	評価指標	単位	基準値 R1	実績 R3	目標値 R7	概要
28	児童生徒一人当たりの学校図書館における図書貸出冊数	冊/年	小学校 79.4 中学校 16.5	小学校 95.6 中学校 13.0	小学校 80.0 中学校 20.0	小学校、中学校の学校図書館における児童生徒一人あたりの年間の図書の貸出冊数。

### 読書活動推進事業（主な事業）

<所管課：学校教育課>

事業の概要	<input type="checkbox"/> 読書活動の充実に継続的に取り組み、自ら本を手に取り、楽しんだり、活用したりする本が好きな子どもを育てる。 <input type="checkbox"/> 学校図書館の環境整備を進め、学校図書館の活性化を図る。 <input type="checkbox"/> 公立図書館と連携した教育活動を推進する。
令和3年度の目標	<input type="checkbox"/> 環境整備や読書活動の研究、読書スタンプラリー等の実施を通して、子どもの読書習慣を確立する。 <input type="checkbox"/> 公立図書館との連携を深める。 <input type="checkbox"/> 学校図書館を活用した授業の研究を推進する。 <input type="checkbox"/> 就学前施設への開放に向けた取組の研究をする。 <input type="checkbox"/> 子どもたちが読書に親しんだ成果を発表する機会を設定する。
実施内容	<input type="checkbox"/> 達成状況(1)「読書ノート」「読書スタンプラリーカード」などの配布、家読(うちどく)運動の推進を図るために、春・秋の読書週間・月間にポスター掲示やチラシを配布(2)読書モデル校指定(3校)(3)合同協議会(年2回)、公立図書館との合同研修会(年1回)(4)小学校図書館環境整備事業による環境整備(6校)(5)小中学校児童・生徒の読書活動の成果物を市役所1階展示スペースと芦屋市立図書館エントランスに展示 <input type="checkbox"/> 小中学校における年間貸出し冊数(児童冊数一人あたり)小学校95.6冊、中学校13.0冊
評価	<p>小中学校における年間の図書貸出し冊数及びスタンプラリー達成者数は増加傾向である。学校図書館担当教員と学校図書館司書補助員の合同研修会を実施し各校における読書活動の取組及び読書モデル校の取組を交流できた。読書・学習・情報センターとしての学校図書館の機能向上を図るとともに、教育課程の中での計画的・継続的な学校図書館の活用を推進するために、各校で年間指導計画の作成を進めてきた。</p> <p>また、各学校に向けて公立図書館による団体貸出しの周知を行った。小学校図書館環境整備指定校6校において就学前の幼児の学校図書館の利用促進に向けた環境整備をした。そして新型コロナウイルス感染症対策を講じた上で就学前の子どもたちも利用することができた。</p>
今後の課題・方向性	<p>読書活動を通じて豊かな人間性や確かな学力を育み、子どもたちの生きる力を育成するために、各校での学校図書館活用年間指導計画の作成を進め、教育課程に位置付けながら、人とのつながりを深める読書活動の充実を図っていく。さらに読書・学習・情報の3つのセンター機能を充実させるために環境整備を図っていく。</p> <p>また、小学校では読書に親しみ、読書の楽しさを実感できるような環境整備を進めるとともに、就学前の子どもたちも学校図書館を利用することができるような取組を継続して行う。</p>



1					2			3			4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)

## 重点目標 5 読書のまちづくりの推進

### 基本施策 (2) 生涯にわたって読書に親しむ環境の整備

施策の方向性 1 読書活動を支える公立図書館の機能強化

#### 関連指標

No.	評価指標	単位	基準値 R1	実績 R3	目標値 R7	概要
29	公立図書館における市民1人あたりの図書貸出冊数	冊/年	7.2	7.7	8.0	図書館（本館・分室）における図書貸出冊数を人口で割った冊数。
30	公立図書館における児童（7～15歳）の図書貸出冊数	冊/年	54,839	41,847	73,480	公立図書館における児童（7～15歳）の図書貸出冊数。

#### 図書館運営事業（収集整理利用）（主な事業）

<所管課：図書館>

事業の概要	<input type="checkbox"/> 施設の維持管理 <input type="checkbox"/> 資料の収集（選書・発注・受入・装備・整理・保存） <input type="checkbox"/> 相互利用、相互協力、参考調査相談業務 <input type="checkbox"/> 市民の教養、知的欲求に資する行事・催しを開催 <input type="checkbox"/> 図書館だより「みんなの本だな」発行 <input type="checkbox"/> 図書館ホームページ運営 <input type="checkbox"/> 図書館協議会の運営 <input type="checkbox"/> 日本図書館協会等へ加盟
令和3年度の目標	資料の収集・提供・保存、読書案内、レファレンス、読書関連行事の開催。
実施内容	<input type="checkbox"/> 図書等貸出冊数：722,128冊 <input type="checkbox"/> 図書等予約冊数：182,583冊 <input type="checkbox"/> 資料収集（受入冊数）：11,856冊 <input type="checkbox"/> 児童（7歳～15歳）の図書貸出冊数：41,847冊 <input type="checkbox"/> 図書館協議会：2回 <input type="checkbox"/> 展示（小中学校授業成果など）：10回 <input type="checkbox"/> 図書館行事（実施回数） 図書館スタンプラリー（令和3年11月3日～11月24日）、参加者632人 こどもおはなしの会 7回、えほんの会 11回、打出分室こどもおはなしの会 7回、 親子で楽しむおはなしの会 1回、親子で楽しむえほんの会 2回、 こどもの本の研究会 8回、おはなしの研究会 7回、人形劇の会 1回、折り紙教室 1回 <input type="checkbox"/> 三館連携事業（美術博物館・谷崎潤一郎記念館・図書館）「niwa-doku」1回
評価	市民1人あたりの図書貸出冊数（R02：6.3冊→R03：7.7冊）、児童（7～15歳）の図書貸出冊数（R02：35,600冊→R03：41,847冊）は、いずれも昨年度に比べて増加した。また、コロナ禍の中、開催を中止した事業もあるが、感染対策を講じながら図書館行事を開催することができた。今年度は、図書館本館、打出分室、大原分室、公民館図書館、児童センター図書室を周り、各施設で1冊以上、本を借り、スタンプを5個集めると「読書手帳」をプレゼントする「図書館スタンプラリー」を開催した。読書手帳は305冊を配布。
今後の課題・方向性	新型コロナウイルス感染予防対策を行いながら、図書館や読書に興味を抱くような行事を開催し、本との出会いづくりの一助となるように取り組む。また、引き続き、小学3年生の図書館見学や出前授業、小中学校の授業成果の館内展示などの学校連携を進めながら図書館の周知に取り組む。

1					2			3			4		5	
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(3)	(1)	(2)	(1)	(2)

## 図書館施設整備事業（主な事業）

<所管課：図書館>

事業の概要	<input type="checkbox"/> 市民等利用者が快適に過ごせるよう、施設整備を行う。 <input type="checkbox"/> 老朽化した施設及び設備の保全を行い、良好な施設環境を保持する。
令和3年度の目標	非来館型サービスの充実の一つとして電子図書館サービスの開始。 打出分室の改修設計委託。 図書消毒機増設。
実施内容	令和3年8月から電子図書館サービスを開始した。 閲覧：15,304人 貸し出し：8,626人 予約：1,291人 GIGAスクールのタブレットに電子図書館のショートカットキーを作成し、小中学校へPRのちらしを配布した。 打出分室改修の設計委託を行う予定であったが、令和4年度に延期になった。 図書消毒機を本館に設置。
評価	非来館型サービスの充実を図るため、8月より電子図書館サービスを開始した。 図書消毒機を本館に1台増設し、計2台で貸し出しの際、消毒のための行列が緩和された。
今後の課題・方向性	引き続き電子図書館サービスの周知に努める。また施設及び設備の保全を適切に行い良好な読書環境の保持に努める。

## 公民館図書室の運営（その他事業）

<所管課：公民館>

事業の概要	生涯学習並びに教養の向上の支援。
令和3年度の目標	新型コロナウイルス感染症対策に努め、図書館本館と連動し、適切に図書室運営を行う。
実施内容	公民館図書室は、新型コロナウイルス感染症防止対策を行い、生涯学習の場として、図書館本館と連動し、適切に運営を行った。

## IV 学識経験者による総合評価

兵庫教育大学大学院 特任教授 浅野 良一 氏

令和3年度は、第3期芦屋市教育振興基本計画の初年度であった。アフターコロナを見据えつつ「教育のまち芦屋」として次世代に向けた人づくりを推進していくために取り組まれた教育施策の成果と課題について考察する。

1点目は、コロナ禍にあっても各施策が着実に実施されたことについてである。例えば、就学前教育の推進に向けて、保育教諭や保育士の人材育成に資する研修会を実施したり、子どもの居場所づくりとしての園庭開放や交流の充実を図ったりと確実に施策を実行に移している。また、学力向上支援事業においては、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた取組の成果を交流し、授業改善の取組を進めることができている。さらには、「豊かな心」の育成を図るために新型コロナウイルス感染症対策を講じ、安全を確保しながら工夫して環境教育推進・自然学校推進事業やトライやる・ウィーク推進事業、文化活動振興事業を実施することができている。

2点目は、子どもの内面理解に基づく生徒指導の充実に向けたさらなる取組についてである。令和3年度は、適応教室在籍児童生徒の保護者や不登校で悩む保護者や児童生徒へ241回の教育相談を実施したり、カウンセリングセンターの相談件数が前年度比で155%増となったりしていることは大きな成果である。こうした取組を地道に行いつつ魅力ある学校づくりを進めていながら不登校児童生徒の増加傾向を抑えていく取組に期待する。

3点目は、学校園・家庭・地域の連携についてである。コロナ禍は、連携教育活動を推進していく上で大きな障壁になっているのは間違いない。しかし、そうした中であっても、子どもたちの放課後の居場所づくりの継続を最優先にした判断は妥当であり「あしやキッズスクエア」を8小学校で延べ1343回開催したことは成果と言える。また、子ども若者育成支援対策において、477名の相談者数、延べ1008回の相談件数があったことは、この取組の必要性を語るに十分な根拠となり得る。

4点目は、学校園ICT環境整備についてである。コロナ禍によって学校園のICT環境整備が一気に加速したことは周知のとおりであるが、教職員が整備されたICT環境を有効に活用できるかがアフターコロナにおける教育活動を左右すると言っても過言ではない。ICT機器を活用した授業改善に対応する研修体制を充実させるとともに、ICT教育に対する教員の意識改革も図っていく必要がある。なぜならば、ICT教育の進化は日進月歩であるため、これからの教員は常に学び続けることが期待されるからである。

5点目は、生涯学習の推進についてである。評価指標である「中学生以下の美術博物館入館者数」が基準値である令和元年度の1742人を1000人近く上回り令和3年度は2825人であった。これは、目標値である令和7年度の2000人を超えており大きな成果と言える。また、市民1人当たりの図書貸出冊数は令和2年度比で増加している。今後も「図書館スタンプラリー」で「読書手帳」をプレゼントするといった取組などを継続することで市民の読書意識が高まることを期待する。

第3期芦屋市教育振興基本計画の実施初年度の事業について、めざす芦屋の教育「信頼される学校園と成熟した家庭・地域で育む豊かな人間力」を実現するために取り組まれてきた5つの重点目標とその評価指標から成果と課題を考察する。

重点目標1では、「子どもたちの『生きる力』の育成と個を伸ばす教育の充実」のために就学前教育の3歳児保育実践研究や私立幼稚園・認定こども園との合同研究会を実施できていることが先ずもって評価できる。芦屋市の就学前教育の研究は、接続期カリキュラムなど幼児の学びの芽生えや小学校教育につながる質の高いものであり、実践的な研修・研究の取り組みがなされている。今後も、入園希望者が増える実践研究を進めていかれることを期待している。小中学校の教育実践では、「令和の日本型教育」のキーワードである「個別最適化な学び」と「協働的な学び」を実現していくために授業の中でのICT活用が必然となってきている。評価指標の「授業でICTを活用して指導することができる」が現在のところ70%という数値は低いものではないと考えるが、「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、いち早く100%に近づけたいことである。授業の中でのICTの活用については、情報活用能力体系表に基づいての研修だけでなく、市内・校内OJTによる利活用方法の交流によって広げていくことも一つの方法ではないかと思う。「体力・運動能力」の評価指標が昨年度初めて目標値を上回り、「運動体育ハンドブック」などの活用による体育授業の充実によるものと評価できる。

重点目標2では、中学校における不登校生徒の割合が昨年度よりさらに増加している。ただ、これはコロナ禍において感染防止のために登校させない状況があったことで増加した一因もあると考えられる。そのような中で、12名の児童生徒が学校へ復帰できたことは、適応教室等が学校と連携し、個に応じたきめ細やかな指導の賜物と考える。スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、適応教室、カウンセリングセンターと学校の担任や管理職とが連携した不登校生徒へ支援の充実が期待される。例えば、ケース会議の充実、不登校児童生徒が自分のクラスのオンライン授業を適応教室や自宅で見ることができるとも支援の具体ではないかと思う。

重点目標3では、「地域総がかりの教育施策の推進」を掲げ、「芦屋キッズスクエア」や「アサガオ」の事業をはじめ様々な支援活動の充実が成果として挙げられる。コロナ禍で事業を休止された期間があったにも関わらず評価指標の実績をここまで出されたことに敬意を表する。特に、「学校支援ボランティアグループの活動日数」については目標値を上回る実績を上げることができている。本市はコミュニティ・スクール活動や読書ボランティア等の学校ボランティア活動の熟成された教育環境がある。学校園教育への支援にその良き教育環境を生かした、さらなる施策を加えていきたい。「学校園ICT環境整備事業」では、小中学校に一人一台のタブレット端末の整備が実現でき、授業のイノベーションを進めやすくなってきている。学校園ネットワークの再構築や子どもたちを守る情報モラル教育の冊子を作成されたことなどの成果を積み上げることができている。学校園の先生方が授業でICT機器を使いこなせるようになる研修の充実やICT支援員の配置の充実が期待される。

重点目標4の「人生100年を通じた学びの推進」では、評価指標の「中学生以下の美術博物館の入場者数」「公民館講座等の受講率」が1年目で目標値を達成できていることが素晴らしい。これは、芦屋文化ゾーン連携による様々なイベントが功を奏したと思われる。スポーツ啓発事業についてもライフステージに応じた事業推進で奮闘された実績数値が見られる。健康で、学び続ける充実した人生を送ることができるスポーツ・文化イベント事業の更なる充実を願っている。

重点目標5の「読書のまちづくりの推進」では、永らく継続的に観てきた評価指標の「児童生徒一人当たりの学校図書館における図書貸し出し冊数」の小中学校の実績が目標値をはるかに超えた高い数値を示していることを大いに評価したい。これは、各学校に配置されている学校図書館司書補助員や学校の先生方の日頃の丁寧な取り組みと「読書ノート」や「読書スタンプラリー」によるものと考えられる。一方、中学校では貸し出し冊数が伸びていない。これについては近年Web上で本が読めるようになってきていることでその数字が伸び悩んでいかもしれない。一度中学生に調査をかけてみて、分析したい。芦屋の教育のよさの一つである「読書のまち芦屋」でこの第3期間に大きな活性化ができる施策が生み出されることを期待している。コロナ禍が終息した後の地域の中の学校図書館であり、Webを活用した読書活動の推進などがその具体例であると思われる。

Society5.0の超スマート社会の到来を間近に控え、子どもたちや市民の方々が主体的に、自らの人生を創るための学びに取り組み、情報活用能力や論理的思考力などを育み、急速な社会の変化に対応できるようにする教育施策の更なる充実を願っている。

分権化社会のもと、地方における教育委員会の責任と役割はますます重要となっております。

こうした中、毎年度、事務事業の執行状況に応じて「点検」・「評価」を行い、その改善策を検討し、実行に移すこの過程を公表していくことは、教育委員会の果たすべき役割とその意義を広く市民の皆様にお伝えし、お知らせするよい機会であると考えています。

今後も開かれた教育行政の実現を図る上で、「点検」・「評価」を継続的に実施し、その結果を公表してまいりますので、市民の皆様におかれましては、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

令和4年度(令和3年度対象)  
芦屋市教育委員会事務の点検及び評価報告書

令和4年8月

芦屋市教育委員会

〒659-8501

兵庫県芦屋市精道町7番6号

TEL (0797)38-2085

FAX (0797)38-2166